

保育所等の地域子育て支援担当者の資質に関する研究

〈研究代表者〉	青井 夕貴	(仁愛大学准教授)
〈共同研究者〉	清水 益治	(帝塚山大学学科長)
	西村 重稀	(仁愛大学名誉教授)
	波田埜 英治	(聖和短期大学准教授)
	吉岡 眞知子	(東大阪大学学長)
	成田 朋子	(名古屋柳城短期大学名誉教授)
	碓氷 ゆかり	(聖和短期大学教授)
	森 俊之	(仁愛大学教授)
	水上 彰子	(富山福祉短期大学非常勤講師)
	中島 一	((社福)あまのふたば会理事長)
	千葉 武夫	(聖和短期大学学長)
	岡村 季光	(奈良学園大学教授)

研究の概要

本研究では、保育所等における地域子育て支援の主担当者の資質を調査し、支援の実態との関係を検討した。資質については、我々が開発した育成指標を活用し、育成指標に基づいた地域子育て支援担当者用の研修計画を作成するための基礎資料を得ることが目的であった。なお、本研究では実施率が比較的高い「一時保育」「園庭開放」「情報提供・相談」の3事業に特化して調査を実施することとした。

各事業担当者の地域における子育て支援に関する資質と困り度の関係をみると、資質が高い者ほど困り度が少ない傾向があった。一時保育担当者では「日常的に関係機関や団体と連携し、ネットワークを構築する」「年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う」「担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある」、園庭開放担当者では「担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある」「保育所全体で保護者の子育てを支援する体制を作る」「日常的に関係機関や団体等と連携、ネットワークを構築する」「記録を作成し、実施を評価する」の項目で資質が高い段階の方が困り度の平均値が低かった。情報提供・相談担当者では「子育てに関する法制度やサービス等の情報を収集する」など他の担当者と比べてより多くの項目でその傾向がみられた。

子育て支援に関する研修の内容別・受講経験別に資質得点の平均値を比較すると、一時保育担当者では「保護者支援・子育て支援の意義」「保護者に対する相談援助」「地域における子育て支援」「虐待予防」、園庭開放担当者では「地域における子育て支援」、情報提供・相談担当者では「保護者支援・子育て支援の意義」「保護者に対する相談援助」「地域における子育て支援」「関係機関との連携」の内容の研修を受講している方が地域における子育て支援の資質得点が高かった。つまり、上記のような研修を受講することによって、資質向上が期待できるといえる。また「障害児保育」のキャリアアップ研修は、いずれの事業でも地域における子育て支援の資質を高めることが明らかになった。

一方で、研修を受講することが、困り度を高める可能性が示唆された。たとえば一時保育担当者では、「子どもが主体的に遊べるような環境をつくる」の項目で、「関係機関との連携」に関する研修内容の受講経験がある者の方がいない者よりも困り度の得点が高かった。このような傾向が、一時保育担当者では5項目、園庭開放担当者では6項目、情報提供・相談担当者では3項目の困り度でみられた。さらにキャリアアップ研修においても、「保護者支援・子育て支援」を受講した園庭開放担当者では、「教材づくりの時間を確保する」の困り度の得点が受講していない者よりも高かった。同研修を受講した情報提供・相談担当者では、「地域全般的保護者のニーズに沿った情報を提供する」「保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する」「保護者に保育に

関わる活動への参加を促す」「企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する」の困り度の得点が受講していない者よりも高かった。

このように本研究では、様々な研修の受講で子育て支援事業担当者の資質が高まる可能性と共に、地域子育て支援事業内容の特性による違いや資質と困り度との相互補完的な関係が示された。とくに、困り度という新たな視点を提供したことには大きな意義があった。今後は、「困り度を意識した段階的な研修の開発」と「新たな困り度尺度の開発」に取り組むことにより、地域子育て支援担当者の資質の育成に貢献すると期待できる。

キーワード：地域子育て支援担当者、資質、研修、困り度

I. 研究の目的と背景

人口減少が進む中、保育所等を地域社会のために欠かせない社会インフラとしてどのように維持していくのかは、近年の大きな課題となっている。地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会（2021）では、地域に住む児童やその保護者、特に孤立した子育て家庭に寄り添い、必要に応じた助言等により各家庭の「子育て力」を高めることも含めた支援を行う枠組みの必要性が示されている。さらに、保育士の有する保育技術が見える化することも含めた情報提供や一時預かり事業の有効活用についても検討事項として挙げている。保育所における地域子育て支援については、児童福祉法第48条の4において、地域の住民に対してその行う保育に関する情報提供を行うこと、その行う保育に支障がない限りにおいて、乳児・幼児の保育に関する相談に応じ、助言を行うことが努力義務となっている。幼保連携型認定こども園では、その目的（認定こども園法第2条の7）にあるように、実施義務である。

しかしながら、このような地域の子育て支援を行っている保育者に必要な資質や実際の意識について

は、明らかではない。保育所や保育所に勤務する保育士が効果的に業務を行い、他機関と連携しながら地域子育て支援に取り組んでいるケースもあれば、地域子育て支援等の向き合い方について対応のノウハウが蓄積されていないケースも考えられるため、今後の実態調査及び手引きの作成等が望まれている（地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会，2021）。

認定こども園における地域子育て支援の実態については、令和3年度内閣府補助事業として「認定こども園における子育て支援事業の取り組み等に関する調査研究」が実施された。その結果、子育て支援事業の実施項目では「地域の親子が交流する場の開設（85.2%）」「一時預かり事業（施設型）（67.9%）」「家庭への情報提供・相談事業（46.3%）」の3つの事業割合が高かった。そのため、本研究においても上記3事業に特化して調査を実施することとした。その他、各事業の実施状況（職員数、実施回数・頻度、利用者数など）については明らかになっているが、地域子育て支援担当者の資質や意識等との関連は示されていない。

幼稚園教諭の資質については、教育公務員特例法

表I－1－1 千葉ら（2023）の育成指標

資質の段階	
保護者への 子育て支援	1. 子育て支援の重要性を理解している。
	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。
	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。
	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。
	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。
地域における 子育て支援	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。
	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。
	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との連携に際しても、他の職員と協力して対応している。
	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。
	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。

に基づき「教員育成指標」を各自治体が作成している。またその指標を踏まえた研修計画が立てられ、研修が実施されている。一方で、保育士の資質については、保育所保育指針等に対応した育成指標は示されていないため、我々は、日本保育協会保育科学研究（2022年度）の助成を受けて、保育所保育指針等に対応した育成指標を開発した（千葉ら，2023）。千葉ら（2023）の育成指標に関する調査の中で、子育て支援に関連する資質としては「保護者への子育て支援」と「地域における子育て支援」が示されている（表1-1-1）。どちらの資質も経験年数と共に向上していく可能性が示唆されたが、「地域における子育て支援」の資質については、15年以上の経験があっても段階5（最終段階）に到達しているものはそれほど多くなかった。したがって、地域子育て支援担当者に求められる資質を明らかにし、十分な研修を実施していく必要があるといえる。

そこで本研究では、我々が開発した育成指標を用いて、保育所等における地域子育て支援の主担当者の資質を調査し、支援の実態との関係を検討する。本研究の目的は、育成指標に基づいた地域子育て支援担当者用の研修計画を作成するための基礎資料を得ることである。

Ⅱ．方法

Ⅱ－１．調査対象

全国の保育所、認定こども園から無作為に約20分の1を抽出し、計1,598か所にアンケート調査を実施した。うち19園は、住所不定などの理由により差し戻されたため、実質には1,579か所に郵送したこととなった。地域子育て支援で実施している事業のうち、実施率が比較的高い3つの事業「一時保育」「園庭開放」「情報提供・相談」に焦点をあて、各事業担当者を調査の対象とした。395か所から返信があり、回収率は25.0%であった。回収したもののうち回答してあった調査票は、一時保育担当者用が205票、園庭開放担当者用が266票、情報提供・相談担当者用が332票であった。

Ⅱ－２．調査内容

A票「一時保育の担当者用」、B票「園庭開放の担当者用」、C票「情報提供・相談の担当者用」の3種の調査票を作成した（参考資料）。共通項目として、千葉ら（2023）の育成指標（試案）から「保護者への子育て支援」と「地域における子育て支援」を引用し、示された資質（5段階）のうち、現在どの段階であるかについて尋ねた。さらに、担当者として意識していること（自由記述）、資質向上への意欲が高まるきっかけ、キャリアアップ研修受講の経験、子育て支援担当者としての資質が今の段階に達するまでに有効だと思われる研修形態、キャリアアップ研修「保護者支援・子育て支援」の内容に基づいた研修の受講経験や必要性、保育士等としての勤務年数、地域子育て支援担当者としての担当年数、雇用形態などの回答者属性を設定した。

担当者別の項目として、A票「一時保育の担当者用」とB票「園庭開放の担当者用」では、実施する上で困っている内容5領域「子どもとの関係（5項目）」「保護者との関係（5項目）」「保育の提供、サービス（6項目）」「その他（4項目）」の計20項目について、その困っている程度を「全く困っていない」から「非常に困っている」の6件法で尋ねた。C票「情報提供・相談の担当者用」でも同様に、実施する上で困っている内容4領域「情報の収集・提供（6項目）」「情報提供の方法等（3項目）」「子育て相談（10項目）」「その他（4項目）」の計23項目について、その困っている程度を「全く困っていない」から「非常に困っている」の6件法で尋ねた。

Ⅱ－３．手続き

依頼文書と共に、1園あたり一時保育担当者用1部、園庭開放担当者用1部、情報提供・相談担当者用1部の計3部、返信用封筒を2023年10月12日に発送した。回答にあたっては、実施していない事業があれば無記入のまま返送する、担当者が2人以上いる場合はうち1名を選ぶ、「一時保育」「園庭開放」「情報提供・相談」のうち複数の事業を担当している場合は該当する全ての調査票に回答する、回答者の雇用形態は問わない、という形で依頼した。締め切りを2023年11月5日としたが、郵便事情等を勘案し、2023年11月20日までに着いたものを分析対象とした。

Ⅱ－４．倫理的配慮

調査票への回答にあたっては、利益相反は存在しないこと、協力しない場合でも不利益を受けないこと、無記名で個人が特定されないこと、データは厳重に管理し本研究以外に使用しないことを書面にて説明し、返信をもって研究協力に同意したこととした。

Ⅱ－４．倫理的配慮

調査票への回答にあたっては、利益相反は存在しないこと、協力しない場合でも不利益を受けないこと、無記名で個人が特定されないこと、データは厳重に管理し本研究以外に使用しないことを書面にて説明し、返信をもって研究協力に同意したこととした。

Ⅲ．結果

Ⅲ－１．一時保育担当者を対象とした調査結果

（１）回答者の属性

回答者の勤務年数について、常勤・非常勤を問わず合算した年数をもとに、５年毎にわけて算出した結果を表Ⅲ－１－１に示した。５年未満は少なかったが、ほぼすべての年数層にわかれて分布していた。回答者の現在の勤務形態について、正規職員か非常勤職員かを尋ねた結果を表Ⅲ－１－２に示した。およそ８割近くが正規職員であった。回答者の現在の年齢について、１０歳毎にわけて算出した結果を表Ⅲ－１－３に示した。５０歳以上が最も多く、ついで４０～４９歳が多かった。２０～２９歳は少なかった。

（２）一時保育担当者の資質

一時保育担当者の資質について、設定された５段階のうち自身の位置について尋ねた結果を表Ⅲ－１－４、表Ⅲ－１－５に示した。もっとも回答が多かったのは、「保護者への子育て支援」「地域における子育て支援」とともに第３段階であった。

（３）一時保育で担当者が感じる困り度

一時保育を実施する上で担当者として困っている程度（本研究では「困り度」と示す）について尋ねた結果を表Ⅲ－１－６に示した。子どもとの関係やその他の各項目については、「あまり困っていない」「困っていない」の回答が多い傾向であったのに対し、保護者との関係における「特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する」や「特別な配慮が必要な保護者に対応する」については、「あまり困っていない」と「少し困っている」が同程度の割合であった。また、保育の提供サービスについては、「あまり困っていない」「少し困っている」の順に回答が多い傾向であった。

表Ⅲ－１－１ 一時保育担当者の勤務年数

５年未満	13	(6.5%)
５～９年	24	(11.9%)
10～14年	35	(17.4%)
15～19年	24	(11.9%)
20～24年	36	(17.9%)
25～29年	33	(16.4%)
30年以上	29	(14.4%)
無回答	7	(3.5%)

表Ⅲ－１－２ 一時保育担当者の勤務形態

正規	158	(78.6%)
非常勤	31	(15.4%)
無回答	12	(6.0%)

表Ⅲ－１－３ 一時保育担当者の年齢

20～29歳	13	(6.5%)
30～39歳	28	(13.9%)
40～49歳	73	(36.3%)
50歳以上	82	(40.8%)
無回答	5	(2.5%)

表Ⅲ－１－４ 保護者への子育て支援の資質

資質の段階		回答数	割合
第１段階	子育て支援の重要性を理解している。	8	4.0%
第２段階	保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	31	15.4%
第３段階	保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	55	27.4%
第４段階	保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	52	25.9%
第５段階	子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	51	25.4%
無回答		4	2.0%

表Ⅲ－１－５ 地域への子育て支援の資質

資質の段階		回答数	割合
第1段階	地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	23	11.4%
第2段階	地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	51	25.4%
第3段階	地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	59	29.4%
第4段階	地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	37	18.4%
第5段階	地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	24	11.9%
無回答		7	3.5%

表Ⅲ－１－６ 一時保育の担当者が感じる困り度

子どもとの関係	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
1 保育者が初対面の子どもと関係をつくる	16 8.0%	62 30.8%	75 37.3%	33 16.4%	9 4.5%	2 1.0%	4 2.0%
2 初対面の子ども同士の関係づくりを促す	17 8.5%	51 25.4%	102 50.7%	19 9.5%	6 3.0%	1 0.5%	5 2.5%
3 子どもが主体的に遊べるような環境をつくる	15 7.5%	61 30.3%	86 42.8%	27 13.4%	4 2.0%	3 1.5%	5 2.5%
4 特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする	7 3.5%	23 11.4%	62 30.8%	78 38.8%	19 9.5%	5 2.5%	7 3.5%
5 受け入れる子どもの実態把握（心身の状況把握、お子さんの特徴、個性等）を行う	10 5.0%	39 19.4%	99 49.3%	36 17.9%	10 5.0%	2 1.0%	5 2.5%
保護者との関係	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
6 保育者が初対面の保護者と関係をつくる	12 6.0%	48 23.9%	103 51.2%	28 13.9%	4 2.0%	2 1.0%	4 2.0%
7 初対面の保護者同士の関係づくりを促す	8 4.0%	40 19.9%	106 52.7%	32 15.9%	7 3.5%	2 1.0%	6 3.0%
8 特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する	7 3.5%	22 10.9%	73 36.3%	74 36.8%	14 7.0%	6 3.0%	5 2.5%
9 特別な配慮が必要な保護者に対応する	8 4.0%	21 10.4%	69 34.3%	72 35.8%	16 8.0%	10 5.0%	5 2.5%
10 保護者の相談に対応する時間と場を確保する	7 3.5%	38 18.9%	92 45.8%	48 23.9%	8 4.0%	5 2.5%	3 1.5%
保育の提供サービス	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
11 保育内容の計画作成の時間を確保する	7 3.5%	36 17.9%	91 45.3%	41 20.4%	16 8.0%	3 1.5%	7 3.5%
12 年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	10 5.0%	39 19.4%	102 50.7%	35 17.4%	10 5.0%	1 0.5%	4 2.0%
13 教材づくりの時間を確保する	8 4.0%	32 15.9%	88 43.8%	44 21.9%	21 10.4%	1 0.5%	7 3.5%
14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	6 3.0%	28 13.9%	53 26.4%	80 39.8%	21 10.4%	9 4.5%	4 2.0%
15 通常の保育活動との連携や調整を行う	10 5.0%	35 17.4%	99 49.3%	40 19.9%	12 6.0%	2 1.0%	3 1.5%
16 保護者がほっと一息つけるようにする	9 4.5%	51 25.4%	107 53.2%	21 10.4%	4 2.0%	2 1.0%	7 3.5%
その他	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
17 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	13 6.5%	35 17.4%	104 51.7%	35 17.4%	5 2.5%	2 1.0%	7 3.5%
18 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	6 3.0%	45 22.4%	104 51.7%	30 14.9%	7 3.5%	2 1.0%	7 3.5%
19 記録を作成し、実施を評価する	8 4.0%	54 26.9%	97 48.3%	26 12.9%	7 3.5%	2 1.0%	7 3.5%
20 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	5 2.5%	32 15.9%	102 50.7%	36 17.9%	12 6.0%	5 2.5%	9 4.5%

（４）資質向上意欲のきっかけ

自分の資質を向上させたいと思うきっかけについて、10の場面別に尋ねた結果を表Ⅲ－１－７に示した。「自分の仕事で子どもが喜んだとき」「子どもの成長を感じることができたとき」「保護者から感謝されたとき」については、「非常に感じる」が最も多く、その他の項目については、「感じる」が最も多い傾向であった。いずれの場面においても、資質向上意欲が高まるきっかけがあることがうかがえた。

（５）キャリアアップ研修の受講経験

キャリアアップ研修を受講した経験があるかどうかを講習内容毎に尋ね、受講したと回答した数を表Ⅲ－１－８に示した。もっとも受講経験が多かったのは、「保護者支援・子育て支援」に関するキャリアアップ研修で、約半数のものが受講していた。つ

いで、「マネジメント」や「乳児保育」に関するキャリアアップ研修を受講したものが多かった。「保育実践」に関するキャリアアップ研修を受講したものは少なかった。

（６）自分の資質形成に有効であった研修の形態

子育て支援担当者としての自分の資質形成に有効であった研修の形態について、４つの研修方法を挙げ、それぞれの研修が有効であったと回答した数を表Ⅲ－１－９に示した。保護者への子育て支援と地域における子育て支援についてわけて尋ねたが、いずれにおいても「園外研修」が有効であったという回答がもっとも多く、６割を超えていた。ついで「園内研修」が多かったが、保護者への子育て支援については約４割であったのに対し、地域における子育て支援については２割であった。

表Ⅲ－１－７ 資質向上意欲のきっかけ

	まったく 感じない	感じない	あまり感 じない	まあまあ感 じる	感じる	非常に感 じる	経験した ことがない	無回答
1 上司に自分の仕事が認められたとき	0 0.0%	0 0.0%	6 3.0%	37 18.4%	92 45.8%	57 28.4%	3 1.5%	6 3.0%
2 自分の仕事で子どもが喜んだとき	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	11 5.5%	80 39.8%	103 51.2%	0 0.0%	6 3.0%
3 子どもの成長を感じることができたとき	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	14 7.0%	73 36.3%	107 53.2%	0 0.0%	6 3.0%
4 保護者から感謝されたとき	0 0.0%	0 0.0%	3 1.5%	18 9.0%	82 40.8%	91 45.3%	0 0.0%	7 3.5%
5 自分に任せられた業務を全うできたとき	0 0.0%	0 0.0%	2 1.0%	31 15.4%	98 48.8%	61 30.3%	1 0.5%	8 4.0%
6 責任の重い仕事や役割を任せられたとき	0 0.0%	1 0.5%	11 5.5%	42 20.9%	90 44.8%	45 22.4%	5 2.5%	7 3.5%
7 新しい仕事や役割を任せられたとき	0 0.0%	1 0.5%	14 7.0%	45 22.4%	86 42.8%	45 22.4%	4 2.0%	6 3.0%
8 他の職員との共同で目標が達成できたとき	0 0.0%	1 0.5%	3 1.5%	30 14.9%	91 45.3%	65 32.3%	5 2.5%	6 3.0%
9 給料が上がったとき	3 1.5%	2 1.0%	19 9.5%	32 15.9%	63 31.3%	67 33.3%	9 4.5%	6 3.0%
10 役職が上がったとき	3 1.5%	5 2.5%	16 8.0%	35 17.4%	61 30.3%	47 23.4%	28 13.9%	6 3.0%

表Ⅲ－１－８ 一時保育担当者のキャリアアップ研修受講経験

1. 乳児保育	87	(43.3%)
2. 幼児教育	74	(36.8%)
3. 障害児保育	67	(33.3%)
4. 食育・アレルギー	53	(26.4%)
5. 保健衛生・安全対策	57	(28.4%)
6. 保護者支援・子育て支援	104	(51.7%)
7. マネジメント	89	(44.3%)
8. 保育実践	19	(9.5%)
9. 受講なし	39	(19.4%)

表Ⅲ－１－９ 一時保育担当者が有効であった研修方法

保護者への子育て支援			地域における子育て支援		
園外研修	129	(64.2%)	園外研修	125	(62.2%)
園内研修	77	(38.3%)	園内研修	41	(20.4%)
公開保育	32	(15.9%)	公開保育	23	(11.4%)
e-learning	46	(22.9%)	e-learning	38	(19.9%)

表Ⅲ－１－１０ 一時保育担当者の子育て支援関係の研修の受講経験

	経験あり		経験なし		無回答	
保護者支援・子育て支援の意義	149	(74.1%)	35	(17.4%)	17	(8.5%)
保護者に対する相談援助	121	(60.2%)	60	(29.9%)	20	(10.0%)
地域における子育て支援	127	(63.2%)	55	(27.4%)	19	(9.5%)
虐待予防	131	(65.2%)	51	(25.4%)	19	(9.5%)
関係機関との連携	99	(49.3%)	81	(40.3%)	21	(10.4%)

表Ⅲ－１－１１ 一時保育担当者の子育て支援関係の研修受講ニーズ

	研修の必要 はない	少し研修が 必要である	研修が必要 である	かなり研修が 必要である	膨大な研修が 必要である	無回答
保護者支援・子育て支援の意義	9 (4.5%)	31 (15.4%)	106 (52.7%)	29 (14.4%)	9 (4.5%)	17 (8.5%)
保護者に対する相談援助	5 (2.5%)	27 (13.4%)	93 (46.3%)	47 (23.4%)	13 (6.5%)	16 (8.0%)
地域における子育て支援	7 (3.5%)	29 (14.4%)	115 (57.2%)	27 (13.4%)	8 (4.0%)	15 (7.5%)
虐待予防	8 (4.0%)	21 (10.4%)	99 (49.3%)	39 (19.4%)	17 (8.5%)	17 (8.5%)
関係機関との連携	7 (3.5%)	33 (16.4%)	103 (51.2%)	35 (17.4%)	9 (4.5%)	14 (7.0%)

(7) 子育て支援に関する研修の受講経験と今後の受講ニーズ

子育て支援に関する研修について5つの内容を挙げ、それらの内容に関する研修の受講経験があるかどうかを尋ねた結果を表Ⅲ－１－１０に示した。もっとも受講経験があった内容は「保護者支援・子育て支援の意義」に関するもので、74%が受講経験ありと回答した。もっとも受講経験が少なかった内容は「関係機関との連携」に関するもので、受講経験ありは49%であった。同じ子育て支援担当者のなかでは、情報提供・相談担当者や園庭開放担当者比べると、全般に研修の受講経験は低かった。

子育て支援に関する研修の5つの内容について、今後の研修の必要性を「研修の必要はない」「少し研修が必要である」「研修が必要である」「かなり研修が必要である」「膨大な研修が必要である」という5段階の選択肢から回答を求めた。その結果を表Ⅲ－１－１１に示した。5つの内容のなかでも、「保護者に対する相談援助」に関する研修や、「虐待予防」に関する研修のニーズが比較的高いことが示された。

Ⅲ－２．園庭開放担当者を対象とした調査結果

（１）回答者の属性

回答者の勤務年数について、常勤・非常勤を問わず合算した年数をもとに、５年毎にわけて算出した結果を表Ⅲ－２－１に示した。５年未満のものは少なかったが、ほぼすべての年数層にわかれて分布していた。また、勤務年数が長いものほど多かった。回答者の現在の勤務形態について、正規職員か非常勤職員かを尋ねた結果を表Ⅲ－２－２に示した。およそ８割近くが正規職員であった。回答者の現在の年齢について、１０歳毎にわけて算出した結果を表Ⅲ－２－３に示した。５０歳以上が最も多く、ついで４０～４９歳が多かった。２０～２９歳は少なかった。

（２）園庭開放担当者の資質

園庭開放担当者としての資質について、設定された５段階のうち自身の位置について尋ねた結果を表Ⅲ－２－４と表Ⅲ－２－５に示した。もっとも回答が多かったのは、「保護者への子育て支援」「地域における子育て支援」ともに第３段階であった。

表Ⅲ－２－１ 園庭開放担当者の勤務年数

５年未満	11	(4.2%)
５～９年	29	(11.1%)
１０～１４年	35	(13.4%)
１５～１９年	34	(13.0%)
２０～２４年	42	(16.0%)
２５～２９年	43	(16.4%)
３０年以上	50	(19.1%)
無回答	18	(6.9%)

表Ⅲ－２－２ 園庭開放担当者の勤務形態

正規	214	(81.7%)
非常勤	29	(11.1%)
無回答	19	(7.3%)

表Ⅲ－２－３ 園庭開放担当者の年齢

２０～２９歳	14	(5.3%)
３０～３９歳	36	(13.7%)
４０～４９歳	92	(35.1%)
５０歳以上	109	(41.6%)
無回答	11	(4.2%)

表Ⅲ－２－４ 保護者への子育て支援の資質

資質の段階		回答数	割合
第１段階	子育て支援の重要性を理解している。	11	(4.2%)
第２段階	保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	16	(6.1%)
第３段階	保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	92	(35.1%)
第４段階	保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	74	(28.2%)
第５段階	子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	68	(26.0%)
無回答		1	(0.4%)

表Ⅲ－２－５ 地域への子育て支援の資質

資質の段階		回答数	割合
第１段階	地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	27	(10.3%)
第２段階	地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	55	(21.0%)
第３段階	地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	89	(34.0%)
第４段階	地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	52	(19.8%)
第５段階	地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	31	(11.8%)
無回答		8	(3.1%)

(3) 園庭開放で担当者が感じる困り度

園庭開放を実施する上で担当者として困っている程度について尋ねた結果を表Ⅲ－２－６に示した。子どもとの関係や保育の提供サービス、その他の各項目については、「あまり困っていない」の回答が

多い傾向であったのに対し、保護者との関係において「特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する」や「特別な配慮が必要な保護者に対応する」については「あまり困っていない」と「少し困っている」が同程度の割合であった。

表Ⅲ－２－６ 園庭開放で担当者が感じる困り度

子どもとの関係	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
1 保育者が初対面の子どもと関係をつくる	36 13.7%	86 32.8%	107 40.8%	19 7.3%	1 0.4%	0 0.0%	13 5.0%
2 初対面の子ども同士の関係づくりを促す	23 8.8%	76 29.0%	114 43.5%	29 11.1%	4 1.5%	1 0.4%	15 5.7%
3 子どもが主体的に遊べるような環境をつくる	24 9.2%	68 26.0%	105 40.1%	47 17.9%	5 1.9%	0 0.0%	13 5.0%
4 特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする	13 5.0%	44 16.8%	100 38.2%	67 25.6%	18 6.9%	5 1.9%	15 5.7%
5 受け入れる子どもの実態把握（心身の状況把握、お子さんの特徴、個性等）を行う	21 8.0%	51 19.5%	110 42.0%	56 21.4%	9 3.4%	0 0.0%	15 5.7%
保護者との関係	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
6 保育者が初対面の保護者と関係をつくる	22 8.4%	72 27.5%	125 47.7%	29 11.1%	0 0.0%	1 0.4%	13 5.0%
7 初対面の保護者同士の関係づくりを促す	12 4.6%	48 18.3%	132 50.4%	47 17.9%	9 3.4%	0 0.0%	14 5.3%
8 特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する	12 4.6%	37 14.1%	87 33.2%	94 35.9%	8 3.1%	7 2.7%	17 6.5%
9 特別な配慮が必要な保護者に対応する	13 5.0%	37 14.1%	86 32.8%	88 33.6%	12 4.6%	7 2.7%	19 7.3%
10 保護者の相談に対応する時間と場を確保する	17 6.5%	52 19.8%	93 35.5%	59 22.5%	17 6.5%	8 3.1%	16 6.1%
保育の提供サービス	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
11 保育内容の計画作成の時間を確保する	23 8.8%	39 14.9%	100 38.2%	60 22.9%	16 6.1%	5 1.9%	19 7.3%
12 年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	26 9.9%	45 17.2%	106 40.5%	59 22.5%	10 3.8%	1 0.4%	15 5.7%
13 教材づくりの時間を確保する	18 6.9%	35 13.4%	95 36.3%	77 29.4%	15 5.7%	4 1.5%	18 6.9%
14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	15 5.7%	47 17.9%	80 30.5%	77 29.4%	19 7.3%	6 2.3%	18 6.9%
15 通常の保育活動との連携や調整を行う	15 5.7%	52 19.8%	106 40.5%	53 20.2%	15 5.7%	4 1.5%	17 6.5%
16 保護者がほっと一息つけるようにする	13 5.0%	58 22.1%	128 48.9%	38 14.5%	7 2.7%	2 0.8%	16 6.1%
その他	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
17 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	16 6.1%	50 19.1%	119 45.4%	55 21.0%	7 2.7%	1 0.4%	14 5.3%
18 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	19 7.3%	56 21.4%	138 52.7%	27 10.3%	3 1.1%	1 0.4%	18 6.9%
19 記録を作成し、実施を評価する	23 8.8%	62 23.7%	116 44.3%	34 13.0%	6 2.3%	1 0.4%	20 7.6%
20 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	13 5.0%	39 14.9%	123 46.9%	54 20.6%	9 3.4%	4 1.5%	20 7.6%

（４）資質向上意欲のきっかけ

自分の資質を向上させたいと思うきっかけについて、10の場面別に尋ねた結果を表Ⅲ－２－７に示した。「自分の仕事で子どもが喜んだとき」「子どもの成長を感じることができたとき」「保護者から感謝されたとき」については、「非常に感じる」が4～5割と最も多く、その他の項目については、「感じる」が最も多い回答であった。いずれの場面においても、資質向上意欲が高まるきっかけがあることがうかがえた。

（５）キャリアアップ研修の受講経験

キャリアアップ研修を受講した経験があるかどうかを講習内容毎に尋ね、受講したと回答した数を表

Ⅲ－２－８に示した。もっとも受講経験が多かったのは、「保護者支援・子育て支援」に関するキャリアアップ研修で、約半数のものが受講していた。ついで、「マネジメント」に関するキャリアアップ研修を受講したものが多かった。

（６）自分の資質形成に有効であった研修の形態

子育て支援担当者としての自分の資質形成に有効であった研修の形態について、4つの研修方法を挙げ、それぞれの研修が有効であったと回答した数を表Ⅲ－２－９に示した。保護者への子育て支援と地域における子育て支援についてわけて尋ねたが、いずれにおいても「園外研修」が有効であったという回答が約7割と最も多かった。ついで「園内研修」

表Ⅲ－２－７ 資質向上意欲のきっかけ

	まったく 感じない	感じない	あまり感 じない	まあまあ感 じる	感じる	非常に感 じる	経験した ことがない	無回答
1 上司に自分の仕事が認められたとき	0 0.0%	0 0.0%	9 3.4%	44 16.8%	125 47.7%	69 26.3%	4 1.5%	11 4.2%
2 自分の仕事で子どもが喜んだとき	0 0.0%	0 0.0%	2 0.8%	15 5.7%	96 36.6%	138 52.7%	0 0.0%	11 4.2%
3 子どもの成長を感じることができたとき	0 0.0%	0 0.0%	2 0.8%	16 6.1%	88 33.6%	145 55.3%	0 0.0%	11 4.2%
4 保護者から感謝されたとき	0 0.0%	0 0.0%	3 1.1%	21 8.0%	107 40.8%	120 45.8%	0 0.0%	11 4.2%
5 自分に任せられた業務を全うできたとき	0 0.0%	0 0.0%	10 3.8%	43 16.4%	114 43.5%	84 32.1%	1 0.4%	10 3.8%
6 責任の重い仕事や役割を任せられたとき	0 0.0%	4 1.5%	14 5.3%	57 21.8%	101 38.5%	66 25.2%	6 2.3%	14 5.3%
7 新しい仕事や役割を任せられたとき	0 0.0%	0 0.0%	18 6.9%	56 21.4%	107 40.8%	62 23.7%	6 2.3%	13 5.0%
8 他の職員との共同で目標が達成できたとき	0 0.0%	0 0.0%	7 2.7%	40 15.3%	113 43.1%	89 34.0%	2 0.8%	11 4.2%
9 給料が上がったとき	2 0.8%	3 1.1%	31 11.8%	41 15.6%	91 34.7%	70 26.7%	10 3.8%	14 5.3%
10 役職が上がったとき	3 1.1%	4 1.5%	33 12.6%	51 19.5%	82 31.3%	50 19.1%	25 9.5%	14 5.3%

表Ⅲ－２－８ 園庭開放担当者のキャリアアップ研修受講経験

1. 乳児保育	92	(35.1%)
2. 幼児教育	84	(32.1%)
3. 障害児保育	89	(34.0%)
4. 食育・アレルギー	64	(24.4%)
5. 保健衛生・安全対策	78	(29.8%)
6. 保護者支援・子育て支援	134	(51.1%)
7. マネジメント	114	(43.5%)
8. 保育実践	30	(11.5%)
9. 受講なし	53	(20.2%)

が多かったが、保護者への子育て支援については約4割であったのに対し、地域における子育て支援については約2割であった。

(7) 子育て支援に関する研修の受講経験と今後の受講ニーズ

子育て支援に関する研修について、5つの内容を挙げ、それらの内容に関する研修の受講経験があるかどうかを尋ねた結果を表Ⅲ－2－10に示した。もっとも受講経験があった内容は「保護者支援・子育て支援の意義」に関するもので、79%が受講経験ありと回答した。もっとも受講経験が少なかった内容は「関係機関との連携」に関するもので、受講経験ありは55%であった。

子育て支援に関する研修の5つの内容について、今後の研修の必要性を「研修の必要はない」「少し研修が必要である」「研修が必要である」「かなり研修が必要である」「膨大な研修が必要である」という5段階の選択肢から回答を求めた。その結果を表Ⅲ－2－11に示した。5つの内容のなかでも、「保護者に対する相談援助」に関する研修や、「虐待予防」に関する研修のニーズが比較的高いことが示された。

表Ⅲ－2－9 園庭開放担当者にとって有効であった研修方法

保護者への子育て支援			地域における子育て支援		
園外研修	192	(73.3%)	園外研修	178	(67.9%)
園内研修	100	(38.2%)	園内研修	56	(21.4%)
公開保育	41	(15.6%)	公開保育	30	(11.5%)
e-learning	55	(21.0%)	e-learning	53	(20.2%)

表Ⅲ－2－10 園庭開放担当者における子育て支援関係の研修の受講経験

	経験あり		経験なし		無回答	
保護者支援・子育て支援の意義	207	(79.0%)	28	(10.7%)	27	(10.3%)
保護者に対する相談援助	185	(70.6%)	48	(18.3%)	29	(11.1%)
地域における子育て支援	162	(61.8%)	67	(25.6%)	33	(12.6%)
虐待予防	192	(73.3%)	42	(16.0%)	28	(10.7%)
関係機関との連携	146	(55.7%)	83	(31.7%)	33	(12.6%)

表Ⅲ－2－11 園庭開放担当者における子育て支援関係の研修の受講ニーズ

	研修の必要はない	少し研修が必要である	研修が必要である	かなり研修が必要である	膨大な研修が必要である	無回答
保護者支援・子育て支援の意義	11 (4.2%)	27 (10.3%)	145 (55.3%)	37 (14.1%)	10 (3.8%)	32 (12.2%)
保護者に対する相談援助	6 (2.3%)	25 (9.5%)	135 (51.5%)	52 (19.8%)	15 (5.7%)	29 (11.1%)
地域における子育て支援	7 (2.7%)	32 (12.2%)	151 (57.6%)	33 (12.6%)	8 (3.1%)	31 (11.8%)
虐待予防	3 (1.1%)	26 (9.9%)	137 (52.3%)	47 (17.9%)	19 (7.3%)	30 (11.5%)
関係機関との連携	7 (2.7%)	31 (11.8%)	143 (54.6%)	39 (14.9%)	10 (3.8%)	32 (12.2%)

Ⅲ－３．情報提供・相談担当者を対象とした調査結果

（１）回答者の基本属性

回答者の勤務年数について、常勤・非常勤を問わず合算した年数をもとに、５年毎にわけて算出した結果を表Ⅲ－３－１に示した。５年未満は少なかったが、ほぼすべての年数層にわかれて分布していた。また、勤務年数が長いものほど多かった。回答者の現在の勤務形態について、正規職員か非常勤職員かを尋ねた結果を表Ⅲ－３－２に示した。およそ８割近くが正規職員であった。回答者の現在の年齢について、１０歳毎にわけて算出した結果を表Ⅲ－３－３に示した。５０歳以上が最も多く、ついで４０～４９歳が多かった。２０～２９歳は少なかった。

（２）情報提供・相談担当者の資質

情報提供・相談担当者としての資質について、設定された５段階のうち自身の位置について尋ねた結果を表Ⅲ－３－４と表Ⅲ－３－５に示した。もっとも回答が多かったのは、「保護者への子育て支援」は第５段階、「地域における子育て支援」は第３段階であった。

表Ⅲ－３－１ 情報提供・相談担当者の勤務年数

５年未満	13	(4.0%)
５～９年	34	(10.4%)
１０～１４年	42	(12.8%)
１５～１９年	43	(13.1%)
２０～２４年	50	(15.2%)
２５～２９年	56	(17.1%)
３０年以上	75	(22.9%)
無回答	15	(4.6%)

表Ⅲ－３－２ 情報提供・相談担当者の勤務形態

正規	268	(81.7%)
非常勤	25	(7.6%)
無回答	35	(10.7%)

表Ⅲ－３－３ 情報提供・相談担当者の年齢

２０～２９歳	9	(2.7%)
３０～３９歳	38	(11.6%)
４０～４９歳	119	(36.3%)
５０歳以上	153	(46.6%)
無回答	9	(2.7%)

表Ⅲ－３－４ 保護者への子育て支援の資質

資質の段階		回答数	割合
第１段階	子育て支援の重要性を理解している。	10	(3.0%)
第２段階	保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	14	(4.3%)
第３段階	保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	62	(18.9%)
第４段階	保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	116	(35.4%)
第５段階	子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	120	(36.6%)
無回答		6	(1.8%)

表Ⅲ－３－５ 地域への子育て支援の資質

資質の段階		回答数	割合
第１段階	地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	29	(8.8%)
第２段階	地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	49	(14.9%)
第３段階	地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	109	(33.2%)
第４段階	地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	73	(22.3%)
第５段階	地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	62	(18.9%)
無回答		6	(1.8%)

(3) 情報提供・相談で担当者として感じる困り度

情報提供・相談を実施する上で担当者として困っている程度について尋ねた結果を表Ⅲ－３－６に示した。各項目については、「あまり困っていない」が最も回答が多く、「困っていない」「少し困っている」が次に回答が多い傾向であった。一方、個々や

地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する項目については「あまり困っていない」と「少し困っている」が同程度の割合であった。「療育の必要性（専門機関との連携等）の判断を行う」の項目については、「少し困っている」が最も回答が多かった。

表Ⅲ－３－６ 情報提供・相談で担当者として感じる困り度

情報の収集・提供	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
1 子育てに関する法制度やサービス等の情報を収集する	10 3.0%	70 21.3%	139 42.4%	90 27.4%	11 3.4%	1 0.3%	7 2.1%
2 地域に関する情報を収集する	8 2.4%	66 20.1%	152 46.3%	72 22.0%	21 6.4%	3 0.9%	6 1.8%
3 子どもや子育て方法に関する情報を収集する	9 2.7%	82 25.0%	165 50.3%	53 16.2%	9 2.7%	1 0.3%	9 2.7%
4 個々の保護者のニーズに沿った情報を提供する	10 3.0%	53 16.2%	126 38.4%	114 34.8%	15 4.6%	3 0.9%	7 2.1%
5 地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する	5 1.5%	57 17.4%	121 36.9%	102 31.1%	32 9.8%	3 0.9%	8 2.4%
6 保育所等の特性を生かした情報を提供する	27 8.2%	86 26.2%	145 44.2%	46 14.0%	13 4.0%	1 0.3%	10 3.0%
情報提供の方法等	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
7 多様な広報媒体（チラシ、便り、ホームページ等）を活用し、情報を提供する	23 7.0%	81 24.7%	136 41.5%	64 19.5%	14 4.3%	1 0.3%	9 2.7%
8 保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する	9 2.7%	57 17.4%	145 44.2%	91 27.7%	16 4.9%	4 1.2%	6 1.8%
9 定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する	14 4.3%	67 20.4%	143 43.6%	80 24.4%	13 4.0%	4 1.2%	7 2.1%
子育て相談	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
10 保護者の話を傾聴し、保護者の気持ちや理解してほしいことを受容・共感する	33 10.1%	95 29.0%	142 43.3%	42 12.8%	9 2.7%	3 0.9%	4 1.2%
11 個々の家庭のアセスメントを行い、ニーズを把握する	13 4.0%	68 20.7%	140 42.7%	85 25.9%	14 4.3%	2 0.6%	6 1.8%
12 保護者自身が自己決定する過程を支える	6 1.8%	66 20.1%	151 46.0%	78 23.8%	17 5.2%	3 0.9%	7 2.1%
13 療育の必要性（専門機関との連携等）の判断を行う	14 4.3%	49 14.9%	79 24.1%	122 37.2%	38 11.6%	18 5.5%	8 2.4%
14 虐待等が疑われる場合の通告の判断を行う	25 7.6%	61 18.6%	137 41.8%	73 22.3%	20 6.1%	6 1.8%	6 1.8%
15 保護者との相互理解を図る	10 3.0%	73 22.3%	141 43.0%	86 26.2%	12 3.7%	2 0.6%	4 1.2%
16 保護者が意欲的に子育てする気持ちを育てる	5 1.5%	49 14.9%	149 45.4%	96 29.3%	20 6.1%	3 0.9%	6 1.8%
17 保護者に保育に関わる活動への参加を促す	14 4.3%	76 23.2%	156 47.6%	63 19.2%	11 3.4%	4 1.2%	4 1.2%
18 保育と子育て支援の関連を理解して、取り組む	16 4.9%	77 23.5%	179 54.6%	44 13.4%	7 2.1%	1 0.3%	4 1.2%
19 保護者の個別の状況に配慮して、子育てを支援する	12 3.7%	68 20.7%	153 46.6%	74 22.6%	11 3.4%	3 0.9%	7 2.1%
その他	全く困っていない	困っていない	あまり困っていない	少し困っている	困っている	非常に困っている	無回答
20 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	13 4.0%	62 18.9%	145 44.2%	81 24.7%	19 5.8%	2 0.6%	6 1.8%
21 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	11 3.4%	64 19.5%	161 49.1%	64 19.5%	18 5.5%	4 1.2%	6 1.8%
22 記録を作成し、実施を評価する	13 4.0%	80 24.4%	155 47.3%	62 18.9%	9 2.7%	3 0.9%	6 1.8%
23 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	13 4.0%	62 18.9%	147 44.8%	78 23.8%	17 5.2%	5 1.5%	6 1.8%

（４）資質向上意欲のきっかけ

自分の資質を向上させたいと思うきっかけについて、10の場面別に尋ねた結果を表Ⅲ－３－７に示した。「自分の仕事で子どもが喜んだとき」「子どもの成長を感じることができたとき」「保護者から感謝されたとき」については、「非常に感じる」が4～6割と最も多く、その他の項目については、「感じる」が最も多い回答であった。いずれの場面においても、資質向上意欲が高まるきっかけがあることがうかがえた。

（５）キャリアアップ研修の受講経験

キャリアアップ研修を受講した経験があるかどうかを講習内容毎に尋ね、受講したと回答した数を表

Ⅲ－３－８に示した。もっとも受講経験が多かったのは、「保護者支援・子育て支援」に関するキャリアアップ研修で、約半数が受講していた。ついで「マネジメント」に関するキャリアアップ研修も受講したものが多く、やはり半数近くが受講していた。

（６）自分の資質形成に有効であった研修の形態

情報提供・相談で担当者としての自分の資質形成に有効であった研修の形態について、4つの研修方法を挙げ、それぞれの研修が有効であったと回答した数を表Ⅲ－３－９に示した。保護者への子育て支援と地域における子育て支援についてわけて尋ねたが、いずれにおいても「園外研修」が有効であったという回答がもっとも多く、7割を超えていた。つ

表Ⅲ－３－７ 資質向上意欲のきっかけ

	まったく 感じない	感じない	あまり感 じない	まあまあ感 じる	感じる	非常に感 じる	経験した ことがない	無回答
1 上司に自分の仕事が認められたとき	0 0.0%	0 0.0%	12 3.7%	62 18.9%	144 43.9%	93 28.4%	6 1.8%	11 3.4%
2 自分の仕事で子どもが喜んだとき	0 0.0%	1 0.3%	2 0.6%	28 8.5%	111 33.8%	178 54.3%	0 0.0%	8 2.4%
3 子どもの成長を感じることができたとき	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	21 6.4%	97 29.6%	199 60.7%	0 0.0%	8 2.4%
4 保護者から感謝されたとき	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	41 12.5%	116 35.4%	159 48.5%	0 0.0%	9 2.7%
5 自分に任せられた業務を全うできたとき	0 0.0%	2 0.6%	8 2.4%	66 20.1%	131 39.9%	113 34.5%	0 0.0%	8 2.4%
6 責任の重い仕事や役割を任せられたとき	2 0.6%	6 1.8%	24 7.3%	88 26.8%	127 38.7%	70 21.3%	2 0.6%	9 2.7%
7 新しい仕事や役割を任せられたとき	1 0.3%	3 0.9%	26 7.9%	87 26.5%	139 42.4%	60 18.3%	3 0.9%	9 2.7%
8 他の職員との共同で目標が達成できたとき	1 0.3%	1 0.3%	5 1.5%	58 17.7%	136 41.5%	117 35.7%	1 0.3%	9 2.7%
9 給料が上がったとき	3 0.9%	5 1.5%	44 13.4%	56 17.1%	102 31.1%	98 29.9%	11 3.4%	9 2.7%
10 役職が上がったとき	4 1.2%	11 3.4%	43 13.1%	74 22.6%	105 32.0%	67 20.4%	14 4.3%	10 3.0%

表Ⅲ－３－８ 情報提供・相談担当者のキャリアアップ研修受講経験

1. 乳児保育	124	(37.8%)
2. 幼児教育	105	(32.0%)
3. 障害児保育	113	(34.5%)
4. 食育・アレルギー	80	(24.4%)
5. 保健衛生・安全対策	97	(29.6%)
6. 保護者支援・子育て支援	167	(50.9%)
7. マネジメント	158	(48.2%)
8. 保育実践	36	(11.0%)
9. 受講なし	74	(22.6%)

いで「園内研修」が多かったが、保護者への子育て支援については約4割が回答していたのに対し、地域における子育て支援については2割にとどまっていた。

(7) 子育て支援に関する研修の受講経験と今後の受講ニーズ

子育て支援に関する研修について、5つの内容を挙げ、それらの内容に関する研修の受講経験があるかどうかを尋ねた結果を表Ⅲ－3－10に示した。もっとも受講経験があった内容は「保護者支援・子育て支援の意義」に関するもので、83%が受講経験ありと回答した。もっとも受講経験が少なかった内容は「関係機関との連携」に関するもので、受講経

験ありは61%であった。同じ子育て支援担当者のなかでも、一時保育担当者や園庭開放担当者と比べても、全般に研修の受講経験が高かった。

子育て支援に関する研修の5つの内容について、今後の研修の必要性を「研修の必要はない」「少し研修が必要である」「研修が必要である」「かなり研修が必要である」「膨大な研修が必要である」という5段階の選択肢から回答を求めた。その結果を表Ⅲ－3－11に示した。5つの内容のなかでも、「保護者に対する相談援助」に関する研修や、「虐待予防」に関する研修のニーズが比較的高いことが示された。

表Ⅲ－3－9 情報提供・相談担当者にとって有効であった研修方法

保護者への子育て支援			地域における子育て支援		
園外研修	258	(78.7%)	園外研修	245	(74.7%)
園内研修	135	(41.2%)	園内研修	86	(26.2%)
公開保育	52	(15.9%)	公開保育	46	(14.0%)
e-learning	86	(26.2%)	e-learning	81	(24.7%)

表Ⅲ－3－10 情報提供・相談担当者における子育て支援関係の研修の受講経験

	経験あり		経験なし		無回答	
保護者支援・子育て支援の意義	275	(83.8%)	27	(8.2%)	26	(7.9%)
保護者に対する相談援助	245	(74.7%)	55	(16.8%)	28	(8.5%)
地域における子育て支援	223	(68.0%)	75	(22.9%)	30	(9.1%)
虐待予防	255	(77.7%)	42	(12.8%)	31	(9.5%)
関係機関との連携	200	(61.0%)	96	(29.3%)	32	(9.8%)

表Ⅲ－3－11 情報提供・相談担当者における子育て支援関係の研修の受講ニーズ

	研修の必要 はない	少し研修が 必要である	研修が必要 である	かなり研修が 必要である	膨大な研修が 必要である	無回答
保護者支援・子育て支援の意義	9 (2.7%)	32 (9.8%)	184 (56.1%)	50 (15.2%)	17 (5.2%)	36 (11.0%)
保護者に対する相談援助	5 (1.5%)	34 (10.4%)	159 (48.5%)	75 (22.9%)	21 (6.4%)	34 (10.4%)
地域における子育て支援	9 (2.7%)	34 (10.4%)	191 (58.2%)	47 (14.3%)	12 (3.7%)	35 (10.7%)
虐待予防	7 (2.1%)	33 (10.1%)	161 (49.1%)	69 (21.0%)	26 (7.9%)	32 (9.8%)
関係機関との連携	10 (3.0%)	31 (9.5%)	181 (55.2%)	56 (17.1%)	14 (4.3%)	36 (11.0%)

Ⅲ－４．事業担当者間の比較

(１) 資質

表Ⅲ－４－１は、一時保育担当者、園庭開放担当者、情報提供・相談担当者の保護者への支援と地域における子育て支援に関する資質の各段階の割合を示したものである。事業間の比較のために、表Ⅲ－１－４と５、表Ⅲ－２－４と５、及び表Ⅲ－３－４

と５で無回答者を分母から引いて計算している。

保護者への子育て支援の資質について、一時保育担当者では段階３の割合が最も高く、次いで段階４、段階５であったが、段階３、４、５の間にほとんど差がなかった。園庭開放担当者では段階３が最も高く、次いで段階４、段階５であったが、段階４と５の割合は近かった。情報提供・相談担当者では段階

表Ⅲ－４－１ 一時保育、園庭開放、情報提供・相談担当者の資質の各段階の割合（％）

	段階 1	段階 2	段階 3	段階 4	段階 5	検定結果
保護者への支援の資質						
一時保育担当者	4. 1	15. 7	27. 9	26. 4	25. 9	カイニ乗 (8)=48. 6, p<. 001
園庭開放担当者	4. 2	6. 1	35. 2	28. 4	26. 1	
情報提供・相談担当者	3. 1	4. 3	19. 3	36. 0	37. 3	
地域における子育て支援の資質						
一時保育担当者	11. 9	26. 3	30. 4	19. 1	12. 4	カイニ乗 (8)=16. 4, p<. 05
園庭開放担当者	10. 6	21. 7	35. 0	20. 5	12. 2	
情報提供・相談担当者	9. 0	15. 2	33. 9	22. 7	19. 3	

表Ⅲ－４－2a 一時保育担当者と園庭開放担当者の困り度の割合（％）

			一時保育		園庭開放	
			困っていない（＊）	困っている（＊＊）	困っていない（＊）	困っている（＊＊）
子どもとの関係	1	保育者が初対面の子どもと関係をつくる	77.7	22.3	92.0	8.0
	2	初対面の子ども同士の関係づくりを促す	86.7	13.3	86.2	13.8
	3	子どもが主体的に遊べるような環境をつくる	82.7	17.3	79.1	20.9
	4	特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする	47.4	52.6	63.6	36.4
	5	受け入れる子どもの実態把握（心身の状況把握、お子さんの特徴、個性等）を行う	75.5	24.5	73.7	26.3
保護者との関係	6	保育者が初対面の保護者と関係をつくる	82.7	17.3	88.0	12.0
	7	初対面の保護者同士の関係づくりを促す	79.0	21.0	77.4	22.6
	8	特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する	52.0	48.0	55.5	44.5
	9	特別な配慮が必要な保護者に対応する	50.0	50.0	56.0	44.0
	10	保護者の相談に対応する時間と場を確保する	69.2	30.8	65.9	34.1
保育の提供サービス	11	保育内容の計画作成の時間を確保する	69.1	30.9	66.7	33.3
	12	年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	76.6	23.4	71.7	28.3
	13	教材づくりの時間を確保する	66.0	34.0	60.7	39.3
	14	担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	44.2	55.8	58.2	41.8
	15	通常の保育活動との連携や調整を行う	72.7	27.3	70.6	29.4
	16	保護者がほっと一息つけるようにする	86.1	13.9	80.9	19.1
その他	17	保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	78.4	21.6	74.6	25.4
	18	企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	79.9	20.1	87.3	12.7
	19	記録を作成し、実施を評価する	82.0	18.0	83.1	16.9
	20	日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	72.4	27.6	72.3	27.7

＊）全く困っていない、困っていない、あまり困っていない

＊＊）少し困っている、困っている、非常に困っている

5の割合が最も高く、次いで段階4、段階3であったが、段階5と4の割合は近かった。

地域における子育て支援の資質について、一時保育担当者では段階3の割合が最も高く、次いで段階2、段階4であった。園庭開放担当者では段階3の割合が最も高く、次いで段階2、4であった。情報提供・相談担当者では段階3の割合が最も高く、次いで段階4、段階5であった。

表Ⅲ－4－1の右には、3（事業）×5（段階）のカイ二乗検定を行った結果も合わせて示した。残差分析の結果、5％水準で有意に高かった値はフォントを大きくした。保護者支援の資質について、段階2では一時保育担当者の割合が高かった。情報提供・相談担当者の割合は低かった。段階3では園庭開放担当者の割合が高かった。情報提供・相談担当者の割合は低かった。段階4と5では情報提供・相談担当者の割合が高かった。地域子育て支援の資質について、段階2では一時担当保育者の割合が高かった。段階4と5では情報提供・相談担当者の割合が高

かった。

（2）困り度

表Ⅲ－4－2aは、一時保育担当者と園庭開放担当者の困り度の割合（％）を示したものである。表Ⅲ－1－6、表Ⅲ－2－6の「全く困っていない」「困っていない」「あまり困っていない」の人数を『困っていない』として、「少し困っている」「困っている」「非常に困っている」の人数を『困っている』として合算した。また事業間の比較のために、無回答者を分母から引いて割合を算出した。50％を超える値はフォントを大きくして示している。

一時保育担当者で『困っている』が50％を超えていた項目は、「4 特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする」「9 特別な配慮が必要な保護者に対応する」「14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある」の3つであった。園庭開放で『困っている』が50％を超えていた項目はなかった。

表Ⅲ－4－2b 情報提供・相談担当者の困り度の割合（％）

		困っていない（＊）	困っている（＊＊）
情報の収集・提供	1 子育てに関する法制度やサービス等の情報を収集する	68.2	31.8
	2 地域に関する情報を収集する	70.2	29.8
	3 子どもや子育て方法に関する情報を収集する	80.3	19.7
	4 個々の保護者のニーズに沿った情報を提供する	58.9	41.1
	5 地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する	57.2	42.8
	6 保育所等の特性を生かした情報を提供する	81.1	18.9
情報提供の方法等	7 多様な広報媒体（チラシ、便り、ホームページ等）を活用し、情報を提供する	75.2	24.8
	8 保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する	65.5	34.5
	9 定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する	69.8	30.2
子育て相談	10 保護者の話を傾聴し、保護者の気持ちや理解してほしいことを受容・共感する	83.3	16.7
	11 個々の家庭のアセスメントを行い、ニーズを把握する	68.6	31.4
	12 保護者自身が自己決定する過程を支える	69.5	30.5
	13 療育の必要性（専門機関との連携等）の判断を行う	44.4	55.6
	14 虐待等が疑われる場合の通告の判断を行う	69.3	30.7
	15 保護者との相互理解を図る	69.1	30.9
	16 保護者が意欲的に子育てする気持ちを育てる	63.0	37.0
	17 保護者に保育に関わる活動への参加を促す	75.9	24.1
	18 保育と子育て支援の関連を理解して、取り組む	84.0	16.0
	19 保護者の個別の状況に配慮して、子育てを支援する	72.6	27.4
その他	20 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	68.3	31.7
	21 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	73.3	26.7
	22 記録を作成し、実施を評価する	77.0	23.0
	23 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	68.9	31.1

事業担当者間を比較するために2（一時保育、園庭開放）×2（『困っていない』、『困っている』）のカイ二乗検定を行った。その結果、「1 保育者が初対面の子どもと関係をつくる」「4 特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする」「14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある」では、園庭開放の方が『困っていない』が多かった（順に、 $p<.001$ 、 $p<.001$ $p<.05$ ）。

表Ⅲ－4－2bは、及び表Ⅲ－3－6で、「全く困っていない」「困っていない」「あまり困っていない」の人数を『困っていない』として、「少し困っている」「困っている」「非常に困っている」の人数を『困っている』として合算した。表Ⅲ－4－2aにならって、無回答者を分母から引いて割合を算出し、50%を超える値はフォントを大きくして示している。「13 療育の必要性（専門機関との連携等）の判断を行う」では『困っている』が50%を超えていた。

Ⅲ－5．資質と困り度の関係

（1）一時保育担当者における資質と困り度の関係

表Ⅲ－5－1は、一時保育担当者について保護者への子育て支援に関する資質の段階別に困り度の平均値を示したものである。段階を要因として一要因の分散分析を行い、結果が有意であった所は平均値のフォントを大きくした。

保育の提供サービスの「12 年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う」では段階5の者が段階3や4の者よりも困り度の平均値が低かった。また「16 保護者がほっと一息つけるようにする」では段階2、3、4、5の者が段階1の者よりも、段階2の者が段階3の者よりも平均値が低かった。

その他の「20 日常的に関係機関や団体等と連携、ネットワークを構築する」では段階2、5の者が段階1の者よりも、段階2、5の者が段階3の者よりも困り度の平均値が低かった。「18 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する」では段階2、5の者が段階1の者よりも困り度の平均値が低い傾向が見られた。

表Ⅲ－5－2は、一時保育担当者について地域における子育て支援に関する資質の段階別に困り度

表Ⅲ－5－1 一時保育担当者の保護者への子育て支援に関する資質の段階別にみた困り度の平均値

		段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	検定結果
子どもとの関係	1 保育者が初対面の子どもと関係をつくる	3.1	2.9	2.7	2.8	2.8	
	2 初対面の子ども同士の関係づくりを促す	2.9	2.9	2.8	2.7	2.6	
	3 子どもが主体的に遊べるような環境をつくる	2.3	2.7	2.9	3.0	2.5	
	4 特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする	3.5	3.7	3.4	3.5	3.5	
	5 受け入れる子どもの実態把握（心身の状況把握、お子さんの特徴、個性等）を行う	3.3	3.0	3.1	3.0	2.9	
保護者との関係	6 保育者が初対面の保護者と関係をつくる	3.4	2.9	2.9	2.7	2.8	
	7 初対面の保護者同士の関係づくりを促す	3.5	3.0	3.0	2.9	3.0	
	8 特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する	3.6	3.5	3.5	3.5	3.3	
	9 特別な配慮が必要な保護者に対応する	3.9	3.4	3.6	3.5	3.4	
	10 保護者の相談に対応する時間と場を確保する	3.9	3.3	3.1	3.0	3.1	
保育の提供サービス	11 保育内容の計画作成の時間を確保する	3.8	2.9	3.3	3.1	3.1	
	12 年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	3.3	2.9	3.3	3.1	2.6	段階5<段階34
	13 教材づくりの時間を確保する	3.8	3.1	3.2	3.3	3.1	
	14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	3.8	3.2	3.7	3.7	3.5	
	15 通常の保育活動との連携や調整を行う	3.6	2.9	3.2	3.2	2.9	
	16 保護者がほっと一息つけるようにする	3.8	2.5	2.9	2.8	2.8	段階2345<段階1、段階2<段階3
その他	17 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	3.5	2.8	3.1	3.0	2.8	
	18 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	3.6	2.9	3.1	3.0	2.8	段階25<段階1
	19 記録を作成し、実施を評価する	3.5	2.7	3.0	2.9	2.7	
	20 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	3.8	2.9	3.4	3.1	3.0	段階25<段階1、段階25<段階3

表Ⅲ－５－２ 一時保育担当者の地域における子育て支援に関する資質の段階別にみた困り度の平均値

			段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	検定結果
子どもとの関係	1	保育者が初対面の子どもと関係をつくる	2.7	2.8	2.8	2.8	2.7	
	2	初対面の子ども同士の関係づくりを促す	2.9	2.7	2.7	2.6	2.5	
	3	子どもが主体的に遊べるような環境をつくる	2.7	2.7	2.8	2.8	2.7	
	4	特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	
	5	受け入れる子どもの実態把握（心身の状況把握、お子さんの特徴、個性等）を行う	2.9	2.9	3.2	3.0	2.9	
保護者との関係	6	保育者が初対面の保護者と関係をつくる	2.8	2.9	2.9	2.6	2.9	
	7	初対面の保護者同士の関係づくりを促す	2.8	3.0	3.1	2.9	3.0	
	8	特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する	3.0	3.4	3.6	3.5	3.4	
	9	特別な配慮が必要な保護者に対応する	3.1	3.5	3.6	3.6	3.5	
	10	保護者の相談に対応する時間と場を確保する	2.9	3.2	3.2	3.1	2.8	
保育の提供サービス	11	保育内容の計画作成の時間を確保する	2.9	3.2	3.3	3.2	3.0	
	12	年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	3.1	3.0	3.2	2.9	2.6	段階5<段階123
	13	教材づくりの時間を確保する	2.9	3.2	3.4	3.3	2.9	
	14	担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	3.3	3.5	3.8	3.7	3.1	段階5<段階3
	15	通常の保育活動との連携や調整を行う	3.1	3.0	3.3	3.1	2.7	
その他	16	保護者がほっと一息つけるようにする	2.7	2.8	3.0	2.8	2.7	
	17	保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	3.0	2.9	3.1	3.0	2.6	
	18	企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	2.9	3.0	3.1	3.0	2.6	
	19	記録を作成し、実施を評価する	2.8	2.9	2.9	3.0	2.6	
	20	日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	3.0	3.4	3.4	3.0	2.7	段階5<段階23

表Ⅲ－５－３ 園庭開放担当者の保護者への子育て支援に関する資質の段階別にみた困り度の平均値

			段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	検定結果
子どもとの関係	1	保育者が初対面の子どもと関係をつくる	2.6	2.8	2.4	2.6	2.3	
	2	初対面の子ども同士の関係づくりを促す	3.6	2.9	2.6	2.7	2.5	段階345<段階1
	3	子どもが主体的に遊べるような環境をつくる	3.1	2.8	2.8	2.9	2.5	
	4	特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする	3.8	3.4	3.3	3.2	3.0	
	5	受け入れる子どもの実態把握（心身の状況把握、お子さんの特徴、個性等）を行う	3.4	3.3	2.9	3.1	2.7	段階5<段階124
保護者との関係	6	保育者が初対面の保護者と関係をつくる	3.1	3.0	2.7	2.7	2.4	段階5<段階1234
	7	初対面の保護者同士の関係づくりを促す	3.6	3.1	3.0	3.0	2.8	段階345<段階1
	8	特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する	3.6	3.8	3.4	3.3	3.0	段階5<段階23
	9	特別な配慮が必要な保護者に対応する	3.6	3.8	3.4	3.4	2.9	段階5<段階234
	10	保護者の相談に対応する時間と場を確保する	3.4	3.4	3.1	3.3	2.8	
保育の提供サービス	11	保育内容の計画作成の時間を確保する	3.6	3.1	3.1	3.2	2.9	
	12	年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	3.7	3.0	2.9	3.0	2.8	
	13	教材づくりの時間を確保する	3.6	3.1	3.1	3.4	3.1	
	14	担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	3.9	3.0	3.2	3.3	3.0	
	15	通常の保育活動との連携や調整を行う	3.5	3.2	3.1	3.1	2.8	
その他	16	保護者がほっと一息つけるようにする	3.1	2.6	2.9	3.0	2.7	
	17	保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	3.2	2.8	3.0	3.1	2.7	
	18	企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	2.9	2.8	2.9	2.8	2.5	段階5<段階34
	19	記録を作成し、実施を評価する	3.2	2.5	2.9	2.8	2.5	段階5<段階13
	20	日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	3.3	3.2	3.3	3.1	2.7	段階5<段階34

の平均値を示したものである。表Ⅲ－５－１と同じ分析を行い、フォントを変えた。「その他」の「20 日常的に関係機関や団体と連携し、ネットワークを構築する」では5%水準で有意差があり、段階5の者が段階2と3の者よりも困り度の平均値が低かった。「保育の情報提供サービス」の「12 年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う」と「14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある」では10%水準で傾向が見られた。下位検定の結果、前者では段階5の者が段階1、2、3の者よりも、後者では段階5の者が段階3の者よりも困り度の平均値が低かった。

（2）園庭開放担当者における資質と困り度の関係

表Ⅲ－５－３は園庭開放担当者について保護者への子育て支援に関する資質の段階別に困り度の平均値を示したものである。表Ⅲ－５－１と同じ分析を行い、フォントを変えた。

「子どもとの関係」の「2 初対面の子ども同士の関係作りを促す」では段階3、4、5の者が段階1の者よりも困り度の平均値が低かった。「5 受け入れる子どもの実態把握（心身の状況の把握、お子

さんの特徴、個性等）を行う」では段階5の者が段階1、2、4の者よりも困り度の平均値が低かった。

保護者との関係の「6 保育者が初対面の保護者との関係をつくる」では段階5の者が段階1、2、3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「8 特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する」では段階5の者が段階2、3の者よりも困り度の平均値が低かった。「9 特別な配慮を必要とする保護者に対応する」では段階5の者が段階234の者よりも困り度の平均値が低かった。「7 初対面の保護者同士の関係づくりを促す」では段階3、4、5の者が段階1の者よりも困り度の平均値が低い傾向が見られた。

その他の「20 日常的に関係機関等と連携し、ネットワークを構築する」では段階5の者が段階3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「18 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実践する」では段階5の者が段階3、4の者よりも困り度の平均値が低い傾向が見られた。「19 記録を作成し、実施を評価する」では段階5の者が段階1と3の者よりも困り度の平均値が低い傾向が見られた。

表Ⅲ－５－４は園庭開放担当者について地域にお

表Ⅲ－５－４ 園庭開放担当者の地域における子育て支援に関する資質の段階別にみた困り度の平均値

			段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	検定結果
子どもとの関係	1	保育者が初対面の子どもと関係をつくる	2.5	2.4	2.5	2.5	2.3	
	2	初対面の子ども同士の関係づくりを促す	2.8	2.7	2.6	2.7	2.5	
	3	子どもが主体的に遊べるような環境をつくる	2.9	2.8	2.8	2.8	2.5	
	4	特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする	3.2	3.1	3.3	3.3	2.9	
	5	受け入れる子どもの実態把握（心身の状況把握、お子さんの特徴、個性等）を行う	2.8	3.0	3.0	2.9	2.6	
保護者との関係	6	保育者が初対面の保護者との関係をつくる	2.8	2.8	2.7	2.7	2.3	
	7	初対面の保護者同士の関係づくりを促す	3.0	3.0	3.0	3.1	2.6	
	8	特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する	3.2	3.3	3.3	3.4	2.9	
	9	特別な配慮が必要な保護者に対応する	3.4	3.4	3.3	3.4	2.9	
	10	保護者の相談に対応する時間と場を確保する	3.1	3.3	3.2	3.1	2.6	
保育の提供サービス	11	保育内容の計画作成の時間を確保する	2.8	3.1	3.3	3.1	2.9	
	12	年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	2.9	3.0	3.0	2.7	2.9	
	13	教材づくりの時間を確保する	2.9	3.2	3.3	3.2	3.1	
	14	担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	3.1	2.9	3.6	3.2	3.1	段階24<段階3
	15	通常の保育活動との連携や調整を行う	3.1	3.0	3.2	2.9	2.8	
	16	保護者がほっと一息つけるようにする	3.0	2.8	3.0	2.8	2.6	
その他	17	保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	3.2	2.9	3.0	3.0	2.5	段階5<段階1234
	18	企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	2.6	2.7	2.9	2.7	2.5	
	19	記録を作成し、実施を評価する	2.8	2.7	3.0	2.6	2.4	段階45<段階3
	20	日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	3.0	3.3	3.2	3.1	2.3	段階5<段階1234

ける子育て支援に関する資質の段階別に困り度の平均値を示したものである。これまでと同じ分析を行い、フォントを変えた。

保育の提供サービスの「14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある」では段階2、4の者が段階3の者よりも困り度の平均値が低かった。

その他の「17 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制を作る」と「20 日常的に関係機関や団体等と連携、ネットワークを構築する」では段階5の者が段階1、2、3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「19 記録を作成し、実施を評価する」では段階4、5の者が段階3の者よりも困り度の平均値が低い傾向が見られた。

(3) 情報提供・相談担当者における資質と困り度の関係

表Ⅲ－5－5は情報提供・相談担当者について保護者への子育て支援の資質の段階別に困り度の平均値を示したものである。これまでと同じ分析を行い、フォントを変えた。

情報の収集・提供の「3 子どもや子育て方法に関する情報を収集する」では段階5の者が段階1、2、3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「4 個々の保護者のニーズに沿った情報を提供する」では段階5の者が段階1、2、3、4の者よりも、段階4の者が段階2の者よりも困り度の平均値が低かった。「6 保育所等の特性を生かした情報を提供する」では段階5の者が段階2、3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「1 子育てに関する法制度やサービス等の情報を収集する」では段階5の者が段階1、3の者よりも困り度の平均値が低い傾向が見られた。「5 地域全般の保護者の

表Ⅲ－5－5 情報提供・相談担当者の保護者への子育て支援に関する資質の段階別にみた困り度の平均値

		段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	検定結果
情報の収集・提供	1 子育てに関する法制度やサービス等の情報を収集する	3.5	3.2	3.2	3.1	2.9	段階5<段階13
	2 地域に関する情報を収集する	3.5	3.4	3.2	3.1	3.0	
	3 子どもや子育て方法に関する情報を収集する	3.4	3.2	3.0	3.0	2.7	段階5<段階1234
	4 個々の保護者のニーズに沿った情報を提供する	3.8	3.9	3.4	3.3	3.0	段階5<段階1234、段階4<段階2
	5 地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する	3.7	3.4	3.5	3.4	3.1	段階5<段階34
	6 保育所等の特性を生かした情報を提供する	2.8	3.1	3.1	2.9	2.6	段階5<段階234
情報提供の方法等	7 多様な広報媒体（チラシ、便り、ホームページ等）を活用し、情報を提供する	3.1	3.1	3.0	2.9	2.8	
	8 保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する	3.7	3.4	3.3	3.3	3.0	段階5<段階134
	9 定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する	3.6	3.4	3.2	3.1	2.9	
子育て相談	10 保護者の話を傾聴し、保護者の気持ちや理解してほしいことを受容・共感する	3.1	3.5	3.0	2.8	2.4	段階5<段階1234、段階4<段階2
	11 個々の家庭のアセスメントを行い、ニーズを把握する	3.6	3.5	3.3	3.1	2.8	段階5<段階1234
	12 保護者自身が自己決定する過程を支える	3.6	3.5	3.2	3.2	2.9	段階5<段階1234
	13 療育の必要性（専門機関との連携等）の判断を行う	3.3	3.8	3.8	3.5	3.4	
	14 虐待等が疑われる場合の通告の判断を行う	2.9	3.5	3.4	3.0	2.9	段階5<段階23、段階4<段階3
	15 保護者との相互理解を図る	3.3	3.8	3.2	3.0	2.9	段階5<段階23、段階34<段階2
	16 保護者が意欲的に子育てする気持ちを育てる	3.5	3.8	3.3	3.3	3.1	段階45<段階2
	17 保護者に保育に関わる活動への参加を促す	3.2	3.1	3.1	3.0	2.8	
	18 保育と子育て支援の関連を理解して、取り組む	3.2	3.2	3.0	3.0	2.6	段階5<段階1234
	19 保護者の個別の状況に配慮して、子育てを支援する	3.3	3.3	3.1	3.1	2.9	
その他	20 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	3.3	3.5	3.3	3.2	2.9	段階5<段階234
	21 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	3.3	3.0	3.3	3.2	2.9	段階5<段階34
	22 記録を作成し、実施を評価する	3.5	3.1	3.1	3.0	2.8	段階5<段階134
	23 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	3.5	3.4	3.5	3.2	2.8	段階5<段階1234、段階4<段階3

ニーズに沿った情報を提供する」では段階5の者が段階3、4の者よりも困り度の平均値が低い傾向が見られた。

情報提供の方法等の「8 保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する」では段階5の者が段階1、3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。

子育て相談の「10 保護者の話を傾聴し、保護者の気持ちや理解してほしいことを受容・共感する」では段階5の者が段階1、2、3、4の者よりも、段階4の者が段階2の者よりも困り度の平均値が低かった。「11 個々の家庭のアセスメントを行い、ニーズを把握する」と「12 保護者自身が自己決定

する過程を支える」では段階5の者が段階1、2、3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「14 虐待等が疑われる場合の通告の判断を行う」では段階5の者が段階2、3の者よりも、段階4の者が段階3の者よりも困り度の平均値が低かった。「15 保護者との相互理解を図る」では段階5の者が段階2、3の者よりも、段階3、4の者が段階2の者よりも困り度の平均値が低かった。「18 保育と子育て支援の関連を理解して、取り組む」では段階5の者が段階1、2、3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「16 保護者が意欲的に子育てする気持ちを育てる」では段階4、5の者が段階2の者よりも困り度の平均値が低い傾向が見られた。

表Ⅲ－５－６ 情報提供・相談担当者の地域における子育て支援に関する資質の段階別にみた困り度の平均値

		段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	検定結果
情報の収集・提供	1 子育てに関する法制度やサービス等の情報を収集する	3.6	3.3	3.1	3.0	2.8	段階345<段階1、段階5<段階2
	2 地域に関する情報を収集する	3.6	3.2	3.2	2.9	2.9	段階345<段階1、段階45<段階3
	3 子どもや子育て方法に関する情報を収集する	3.3	3.0	3.1	2.8	2.6	段階5<段階123、段階4<13
	4 個々の保護者のニーズに沿った情報を提供する	3.6	3.3	3.3	3.2	2.9	段階5<段階123、段階4<1
	5 地域全般的保護者のニーズに沿った情報を提供する	3.5	3.5	3.5	3.3	3.0	段階5<段階123
	6 保育所等の特性を生かした情報を提供する	3.0	3.0	2.9	2.6	2.4	段階5<段階123、段階4<段階23
情報提供の方法等	7 多様な広報媒体（チラシ、便り、ホームページ等）を活用し、情報を提供する	3.1	3.0	3.0	2.9	2.6	段階5<段階123
	8 保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する	3.3	3.4	3.2	3.2	2.9	段階5<段階2
	9 定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する	3.3	3.2	3.2	3.1	2.8	段階5<段階123
子育て相談	10 保護者の話を傾聴し、保護者の気持ちや理解してほしいことを受容・共感する	3.1	2.9	2.7	2.6	2.5	段階5<段階12、段階4<段階1
	11 個々の家庭のアセスメントを行い、ニーズを把握する	3.4	3.4	3.1	2.9	2.8	段階5<段階123、段階4<段階12
	12 保護者自身が自己決定する過程を支える	3.6	3.4	3.2	3.0	2.8	段階5<段階123、段階4<段階12
	13 療育の必要性（専門機関との連携等）の判断を行う	3.6	3.8	3.6	3.4	3.2	段階5<段階34
	14 虐待等が疑われる場合の通告の判断を行う	3.2	3.4	3.2	2.9	2.6	段階5<段階123、段階4<段階2
	15 保護者との相互理解を図る	3.4	3.3	3.1	3.0	2.8	段階5<段階123、段階4<段階12
	16 保護者が意欲的に子育てする気持ちを育てる	3.6	3.4	3.3	3.2	3.1	段階5<段階12、段階4<段階1
	17 保護者に保育に関わる活動への参加を促す	3.2	3.1	3.0	2.8	2.9	
	18 保育と子育て支援の関連を理解して、取り組む	3.2	3.0	3.0	2.7	2.5	段階45<段階123
	19 保護者の個別の状況に配慮して、子育てを支援する	3.3	3.3	3.1	2.9	2.7	段階5<段階123、段階4<段階12
その他	20 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	3.5	3.5	3.2	3.0	2.7	段階45<段階12、段階3<2、段階5<3
	21 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	3.5	3.3	3.1	3.0	2.7	段階345<段階1、段階5<段階23
	22 記録を作成し、実施を評価する	3.4	3.1	3.0	2.8	2.6	段階5<段階123、段階4<段階1
	23 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	3.7	3.4	3.2	2.9	2.7	段階45<段階203、段階3<段階1

その他の「20 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる」では段階5の者が段階2、3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「21 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する」では段階5の者が段階3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「22 記録を作成し、実施を評価する」では段階5の者が段階1、3、4の者よりも困り度の平均値が低かった。「23 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する」では段階5の者が段階1、2、3、4の者よりも、段階4の者が段階3の者よりも困り度の平均値が低かった。

表Ⅲ－5－6は情報提供・相談担当者について地域における子育て支援の資質の段階別に困り度の平均値を示したものである。これまでと同じ分析を行い、フォントを変えた。

情報の収集・提供の「1 子育てに関する法制度やサービス等の情報を収集する」では段階3、4、5の者が段階1の者よりも、段階5の者が段階2の者よりも困り度の平均値が低かった。「2 地域に関する情報を収集する」では段階3、4、5の者が段階1の者よりも、段階4、5の者が段階3の者よりも困り度の平均値が低かった。「3 子どもや子育て方法に関する情報を収集する」では段階5の者が段階1、2、3の者よりも、段階4の者が段階1、3の者よりも困り度の平均値が低かった。「4 個々の保護者のニーズに沿った情報を提供する」では段階5の者が段階1、2、3の者よりも、段階4の者が段階1の者よりも困り度の平均値が低かった。「5 地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する」では段階5の者が段階1、2、3の者よりも困り度の平均値が低かった。「6 保育所等の特性を生かした情報を提供する」では段階5の者が段階1、2、3の者よりも、段階4の者が段階2、3の者よりも困り度の平均値が低かった。

情報提供の方法等の「7 多様な広報媒体（チラシ、便り、ホームページ等）を活用し、情報を提供する」と「9 定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する」では段階5の者が段階1、2、3の者よりも困り度の平均値が低い傾向があった。「8 保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する」では段階5の者が段階2の者よりも困り度の平均値が低い傾向があった。

子育て相談の「10 保護者の話を傾聴し、保護者の気持ちや理解してほしいことを受容・共感する」では段階5の者が段階1、2の者よりも、段階4の者が段階1の者よりも困り度の平均値が低かった。

「11 個々の家庭のアセスメントを行い、ニーズを把握する」「12 保護者自身が自己決定する過程を支える」「15 保護者との相互理解を図る」「19 保護者の個別の状況に配慮して、子育てを支援する」ではいずれも段階5の者が段階1、2、3の者よりも、段階4の者が段階1、2の者よりも困り度の平均値が低かった。「14 虐待等が疑われる場合の通告の判断を行う」では段階5の者が段階1、2、3の者よりも、段階4の者が段階2の者よりも困り度の平均値が低かった。「16 保護者が意欲的に子育てする気持ちを育てる」では段階5の者が段階1、2の者よりも、段階4の者が段階1の者よりも困り度の平均値が低かった。「18 保育と子育て支援の関連を理解して、取り組む」では段階4、5の者が段階1、2、3の者よりも困り度の平均値が低かった。「13 療育の必要性（専門機関との連携等）の判断を行う」では段階5の者が段階3、4の者よりも困り度の平均値が低い傾向が見られた。

その他の「20 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる」では段階4、5の者が段階1、2の者よりも、段階3の者が段階2の者よりも、段階5の者が段階3の者よりも困り度の平均値が低かった。「21 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する」では段階3、4、5の者が段階1の者よりも、段階5の者が段階2、3の者よりも困り度の平均値が低かった。「22 記録を作成し、実施を評価する」では段階5の者が段階1、2、3の者よりも、段階4の者が段階1の者よりも困り度の平均値が低かった。「23 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する」では段階4、5の者が段階1、2、3の者よりも、段階3の者が段階1の者よりも困り度の平均値が低かった。

Ⅲ－６．研修が資質と困り度に与える影響

（１）子育て支援に関する研修の研修内容の影響

表Ⅲ－６－１は、子育て支援に関する研修の受講経験別に資質得点の平均値を比較したものである。t-検定をして5%水準で有意差があったところのみ数値を示している。

一時保育担当者の保護者への子育て支援資質では、すべての研修内容で有意差があり、いずれも受講経験がある者の方がいない者よりも資質の得点が高かつ

た。地域における子育て支援の資質では、「関係機関との連携」を除くすべての研修内容で受講経験がある者の方がいない者よりも資質の得点が高かった。

園庭開放担当者の保護者への子育て支援の資質では、「保護者に対する相談援助」と「関係機関との連携」に関する内容で研修経験がある者の方がいない者よりも資質の得点が高かった。地域における子育て支援の資質では、「地域における子育て支援」の研修内容で受講経験がある者の方がいない者よりも資

表Ⅲ－６－１ 子育て支援に関する研修の受講経験別にみた資質得点の平均値

研修の内容	保護者支援・子育て支援の意義		保護者に対する相談援助		地域における子育て支援		虐待予防		関係機関との連携	
経験	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
一時保育										
保護者への子育て支援の資質	3.7	3.1	3.7	3.2	3.7	3.3	3.7	3.2	3.7	3.3
地域における子育て支援の資質	3.1	2.4	3.1	2.7	3.1	2.5	3.1	2.7		
園庭開放										
保護者への子育て支援の資質			3.8	3.4					3.8	3.5
地域における子育て支援の資質					3.2	2.7				
情報提供・相談										
保護者への子育て支援の資質	4.1	3.4	4.1	3.7	4.1	3.7			4.1	3.8
地域における子育て支援の資質	3.3	2.8	3.3	3.0	3.4	2.7			3.4	3.0

表Ⅲ－６－２ 子育て支援に関する研修の受講経験別にみた困り度の平均値

			困り感		保護者支援・子育て支援の意義		保護者に対する相談援助		地域における子育て支援		虐待予防		関係機関との連携	
					あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
一時保育	子どもとの関係	3	子どもが主体的に遊べるような環境をつくる										2.9	2.5
	保護者との関係	6	保育者が初対面の保護者と関係をつくる								2.9	2.6		
		9	特別な配慮が必要な保護者に対応する	3.6	3.1	3.6	3.3							
	保育の提供サービス	11	保育内容の計画作成の時間を確保する			3.3	2.9							
	その他	19	記録を作成し、実施を評価する										3.0	2.7
園庭開放	子どもとの関係	3	子どもが主体的に遊べるような環境をつくる				2.7	3.0	2.7	3.0				
		4	特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする										3.1	3.4
	保育の提供サービス	13	教材づくりの時間を確保する	3.3	2.8									
		14	担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	3.3	2.8									
	その他	17	保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる						2.9	3.2				
		19	記録を作成し、実施を評価する	2.8	2.4									
情報提供・相談	情報の収集・提供	5	地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する								3.4	3.0		
	情報提供の方法等	8	保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する										3.3	3.0
		9	定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する						3.0	3.3				

質の得点が高かった。

情報提供・相談の担当者では、保護者への子育て支援の資質と地域における子育て支援の資質の両方で、「虐待予防」を除くすべての研修内容で受講経験がある者の方がいない者よりも資質の得点が高かった。

「保護者に対する相談援助」と「関係機関との連携」に関する内容の研修は、いずれの事業でも保護者への子育て支援の資質を、「地域における子育て支援」に関する内容の研修は、いずれの事業でも地域における子育て支援の資質を高めると言える。

表Ⅲ－6－2は、子育て支援に関する研修の受講経験別に困り度の平均値を比較したものである。t-検定をして5%水準で有意差があったところのみ数値を示した。またいずれの研修内容でも有意差がなかった困り度の項目は削除した。

一時保育担当者では、子どもとの関係の「3 子どもが主体的に遊べるような環境をつくる」の項目で、「関係機関との連携」に関する研修内容において受講経験がある者の方がいない者よりも困り度の得点が高かった。このことは研修の受講によって困り度が増したことを示している。

保護者との関係の「6 保育者が初対面の保護者と関係をつくる」の項目では「虐待予防」、「9 特別な配慮が必要な保護者に対応する」の項目では「保護者支援・子育て支援の意義」と「保護者に対する相談援助」、保育の提供サービスの「11 保育内容の計画作成の時間を確保する」の項目では「保護者に対する相談援助」、その他の「19 記録を作成し、実施を評価する」の項目では「関係機関との連携」に関する研修内容において、受講経験がある者の方がいない者よりも困り度の得点が高かった。以上のことから一時保育担当者では、一貫して、研修を受けることで困り度が高くなることが明らかになった。

園庭開放担当者では、子どもとの関係の「3 子どもが主体的に遊べるような環境をつくる」の項目で、「相談援助」と「子育て支援」に関する研修内

容において、受講経験がない者の方がいる者よりも困り度の得点が高かった。このことは研修の受講により困り度が減少したことを示すものである。「4 特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする」の項目では、「関係機関との連携」に関する研修内容において、受講経験がない者の方がいる者よりも困り度の得点が高かった。

保育の提供サービスの「13 教材づくりの時間を確保する」と「14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある」の項目では、「保護者支援・子育て支援の意義」に関する研修内容において、受講経験がある者の方がいない者よりも困り度の得点が高かった。その他の「17 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる」の項目では、「子育て支援」に関する研修内容において、受講経験がない者の方がいる者よりも困り度の得点が高かった。「19 記録を作成し、実施を評価する」の項目では「保護者支援・子育て支援の意義」に関する研修内容において、受講経験がある者の方がいない者よりも困り度の得点が高かった。以上のように、園庭開放担当者では、一時保育担当者のような一貫性はなかった。

情報提供・相談の担当者の情報の提供の「5 地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する」の項目では、「虐待予防」に関する研修内容において、受講経験がある者の方がいない者よりも困り度の得点が高かった。情報提供の方法等の「8 保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する」の項目では、「関係機関との連携」に関する研修内容において、受講経験がある者の方がいない者よりも困り度の得点が高かった。「9 定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する」の項目では、「保護者支援・子育て支援の意義」に関する研修内容において、受講経験がない者の方がいる者よりも困り度の得点が高かった。以上のように、情報提供・相談の担当者でも、一時保育担当者のような一貫性はなかった。

（２）キャリアアップ研修の受講経験の影響

表Ⅲ－６－３は、キャリアアップ研修の受講経験別にみた資質得点の平均値を示したものである。表Ⅲ－６－１と同様に、t-検定をして5%水準で有意差があったところのみ数値を示している。

一時保育担当者の保護者への子育て支援の資質では、「障害児保育」「食育・アレルギー対応」「保健衛生・安全対策」「保護者支援・子育て支援」のキャリアアップ研修で有意差があり、いずれも受講経験

がある者の方がいない者よりも資質の得点が高かった。地域における子育て支援の資質では、「障害児保育」「食育・アレルギー対応」「保健衛生・安全対策」「保護者支援・子育て支援」のキャリアアップ研修で受講経験がある者の方がいない者よりも資質の得点が高かった。

園庭開放担当者と情報提供・相談の担当者の地域における子育て支援の資質では、「障害児保育」のキャリアアップ研修で受講経験がある者の方がいない

表Ⅲ－６－３ キャリアアップ研修の受講経験別にみた資質得点の平均値

キャリアアップ研修 経験	乳児保育		幼児教育		障害児保育		食育・ アレルギー対応		保健衛生・ 安全対策		保護者支援・ 子育て支援	
	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
一時保育												
保護者への子育て支援の資質					3.8	3.4	3.9	3.4	3.9	3.4	3.7	3.4
地域における子育て支援の資質					3.2	2.8					3.1	2.7
園庭開放												
保護者への子育て支援の資質												
地域における子育て支援の資質					3.3	2.9						
情報提供・相談												
保護者への子育て支援の資質												
地域における子育て支援の資質					3.5	3.2						

表Ⅲ－６－４ キャリアアップ研修の受講経験別にみた困り度の平均値

			困り感	乳児保育		幼児教育		障害児保育		食育・ アレルギー対応		保健衛生・ 困り感 安全対策		保護者支援・ 子育て支援	
				あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
一時保育	保育の提供サービス	12	年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	2.8	3.2					2.7	3.1				
		17	保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	2.8	3.1					2.7	3.1				
	その他	18	企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	2.8	3.1					2.7	3.0				
		19	記録を作成し、実施を評価する							2.6	3.0				
園庭開放	子どもとの関係	4	特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする					3.0	3.3						
	保育の提供サービス	13	教材づくりの時間を確保する											3.3	3.0
情報提供・相談	情報の収集・提供	5	地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する											3.5	3.2
		7	多様な広報媒体（チラシ、便り、ホームページ等）を活用し、情報を提供する					2.7	3.0						
	情報提供の方法等	8	保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する											3.3	3.1
		9	定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する					2.9	3.2						
	子育て相談	17	保護者に保育に関わる活動への参加を促す											3.1	2.9
		18	保育と子育て支援の関連を理解して、取り組む							3.1	2.8				
	その他	21	企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する											3.2	2.9

者よりも資質の得点が高かった。

「障害児保育」のキャリアアップ研修は、いずれの事業でも地域における子育て支援の資質を高めることが明らかになった。

表Ⅲ－６－４は、キャリアアップ研修の受講経験別に困り度の平均値を比較したものである。表Ⅲ－６－２と同様に、t-検定をして5%水準で有意差があったところのみ数値を示した。またいずれの研修内容でも有意差がなかった困り度の項目は削除した。

一時保育担当者では、保育の提供サービスの「12 年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う」、その他の「17 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる」と「18 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する」の項目では、「乳児保育」と「食育・アレルギー対応」のキャリアアップ研修を受講していない者は受講した者よりも困り度の得点が高かった。また「19 記録を作成し、実施を評価する」の項目でも「食育・アレルギー対応」のキャリアアップ研修を受講していない者は受講した者よりも困り度の得点が高かった。これらの結果は、キャリアアップ研修の受講により困り度が減少することを示している。

園庭開放担当者では、子どもとの関係の「4 特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする」の項目で「障害児保育」のキャリアアップ研修を受講していない者は受講した者よりも困り度の得点が高かった。保育の提供サービスの「13 教材づくりの時間を確保する」の項目では「保護者支援・子育て支援」のキャリアアップ研修を受講した者は受講していない者よりも困り度の得点が高かった。

情報提供・相談の担当者では、情報の収集・提供の「5 地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する」の項目で、「保護者支援・子育て支援」のキャリアアップ研修を受講した者は受講していない者よりも困り度の得点が高かった。情報提供の方法等の「7 多様な広報媒体（チラシ、便り、ホームページ等）を活用し、情報を提供する」と「9 定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する」の項目では、「障害児保育」のキャリアアップ研修を受講していない者は受講した者よりも困り度の得点が高かった。一方、「8 保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する」の項目では、「保護者支援・子育て支援」のキャリアアップ研修を受講した者は受講していない者よりも困り度の得点が高かった。子育て相談の「17 保護者に保育に関わる活動への参加を促す」の項目では「保護者支援・子育て支援」、「18 保育と子育て支援の関連を理解し

て、取り組む」の項目では「食育・アレルギー対応」、その他の「21 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する」の項目では「保護者支援・子育て支援」のキャリアアップ研修を受講した者は受講していない者よりも困り度の得点が高かった。これらの結果から、情報提供・相談の担当者では、一時保育担当者のような一貫性はないと言える。

表Ⅲ－６－４を縦に見ると、「乳児保育」と「障害児保育」のキャリアアップ研修では受講していないの方が、「保護者支援・子育て支援」のキャリアアップ研修では受講したの方が困り度の得点が高いことがわかる。研修を受講することで資質は高まるものの、困り度は増すという結果が得られた。

IV. 考察

IV－１．本研究で得られた結果と意義

本研究で得られた主な結果は次の通りである。

- (1) 研修を受講することによって、資質は高まる。
- (2) 資質が高い者は、困り度が少ない。
- (3) 研修を受講することが、困り度を低める場合もあれば、困り度を高める場合もある。

これらの結果には、次の2つの意義がある。その1つ目は、様々な研修の受講で地域子育て支援事業担当者の資質が高まることを明示した点である。千葉ら（2023）は保育者の育成指標を開発し、経験年数が増すにつれて資質が高まることや資質を高めるのに研修が有効であることを示した。この育成指標には、本研究で用いた子育て支援に関する2つの指標、すなわち、保護者への子育て支援と地域における子育て支援に関する資質も含まれていた。しかしながら千葉らの研究の調査対象者は、0歳児担当、1・2歳児担当、3・4・5歳児担当であり、地域子育て支援事業担当者ではなかった。本研究では3つの子育て支援事業担当者を対象とした結果、研修の受講で資質が高まる可能性と共に、地域子育て支援事業内容の特性による違いも示された。

もう1つの意義は、困り度という新たな視点を提供したことである。西村ら（2015）は、業務ベースの育成指標を提案した。ここでいう業務ベースの指標とは、例えば乳児クラス主担任、3歳以上児クラス主担任、実習生指導など、様々な業務の難易度を調査し、難易度の順に業務を並べ、育成の順序を示したものである。これに対して千葉ら（2023）の育成指標は資質ベースであり、「何ができるようになるのか」に焦点を当ててその順序を示したものである。どちらの指標も保育者が成長するためのステッ

ブを示すという点では共通している。しかしながら保育者は一様に成長していくだけではない。一般に研修を受講し資質が高まれば、業務の遂行がスムーズになり保育者の困り度は減少することが期待される。しかし、研修を受けることでそれまで気付かなかった新たな問題に気づき、新たな困難を抱えるようになることもある。本研究の結果で、研修を受講したの方が高い困り度をもつ場合があることや、資質が低い者よりも資質が中程度に高いの方が高い困り度をもつ傾向がある場合があることなどが、そのことを示唆していると考えられる。保育者にとって、求められる成長こそが負担になることもある。保育者の成長を考えるうえで困り度という視点に注目することも大事であるし、本研究で考案した困り度の尺度は、その程度を測定するのに活用できるだろう。

Ⅳ－２．本研究の発展

本研究は、今後、次の２つの方向に発展できる。その１つは、困り度を意識した研修の開発である。研修を受けることで資質は高まるものの困り度が高まり、そのことが保育者の負担になっては、研修の意義が失われてしまう。困り度をネガティブなことではなくポジティブにとらえ直し、次の研修への動機づけに転換できるような働きかけが重要となる。①新たな課題に気付く研修、②困り度をあらたな動機づけに転換させる研修、③新たな課題や困り度の対応できる資質を高める研修というように、困り度を意識した段階的な研修が開発できれば（たとえば、現行のキャリアアップ研修「保護者支援・子育て支援」を基盤としながら、自身の課題を捉え直し、地域子育て支援事業の特性別に研修内容を開発するなど）、地域子育て支援担当者が無理なく段階的に資質を高め、子育て支援の質が高まっていくことが期待できる。

もう１つは新たな困り度尺度の開発である。本研究では子育て支援に関する困り度尺度を考案した。他の業務に関しても困り度尺度の開発が可能であり、求められるところである。また本研究で、一定以上に資質が高まれば困り度が減少することが明らかになった。このことは、資質と困り度が相互補完的な関係にあると考えられる。新たに業務が求められた場合、その業務に必要な資質の育成が必要になる。その業務に対する「負担」「困り程度」を分析し、尺度を開発できれば、その困り度を減らすための方策も検討できる。そのことが資質の育成にも貢献すると期待できる。

引用文献

- 株式会社リベルタス・コンサルティング（2022）認定こども園における子育て支援事業の取り組み等に関する調査研究調査報告書（令和３年度内閣府補助事業）
厚生労働省（2021）地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会取りまとめ
厚生労働省（2022）保育所等における子育て支援の在り方に関する研究会報告書
千葉武夫・西村重稀・清水益治・森俊之・碓氷ゆかり・成田朋子・吉岡真知子・波田埜英治・水上彰子・青井夕貴・中島一・岡村季光（2023）保育所・認定こども園等の研修体系の形成に関する研究，保育科学研究，12，120–174.
西村重稀・溝口元・石川昭義・清水益治・千葉武夫・田中浩二・高橋英治（2015）保育士のキャリアパスに関する調査研究報告書，社会福祉法人日本保育協会保育科学研究所

A票 一時保育の担当者用

地域子育て支援担当者の資質に関する研究調査票

1. 地域子育て支援の担当者としての資質についてお尋ねします。下の表は「保護者への子育て支援」「地域における子育て支援」の2つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。今のあなたの資質は、5段階のうちどの段階ですか。それぞれの資質ごとに、1から5の数字のいずれか1つに○をつけてください。

	資質の段階	○印
保護者への子育て支援	1. 子育て支援の重要性を理解している。	1
	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	2
	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	3
	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	4
	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	5
地域における子育て支援	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	1
	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	2
	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	3
	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	4
	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	5

2. 一時保育を実施する上で担当者として次の内容にどの程度困っていますか。数字に○をつけてください。

内容	全く困っていない	困っていない	困っていない	困っていない	困っていない	非常に困っている
子どもとの関係	1 保育者が初対面の子どもと関係をつくる	1	2	3	4	5
	2 初対面の子ども同士の関係づくりを促す	1	2	3	4	5
	3 子どもが主体的に遊べるような環境をつくる	1	2	3	4	5
	4 特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする	1	2	3	4	5
	5 受け入れる子どもの実態把握（心身の状況把握、お子さんの特徴、個性等）を行う	1	2	3	4	5
保護者との関係	6 保育者が初対面の保護者と関係をつくる	1	2	3	4	5
	7 初対面の保護者同士の関係づくりを促す	1	2	3	4	5
	8 特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する	1	2	3	4	5
	9 特別な配慮が必要な保護者に対応する	1	2	3	4	5
	10 保護者の相談に対応する時間と場を確保する	1	2	3	4	5
保育の提供サービス	11 保育内容の計画作成の時間を確保する	1	2	3	4	5
	12 年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	1	2	3	4	5
	13 教材づくりの時間を確保する	1	2	3	4	5
	14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	1	2	3	4	5
	15 通常の保育活動との連携や調整を行う	1	2	3	4	5
	16 保護者がほっと一息つけるようにする	1	2	3	4	5
その他	17 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	1	2	3	4	5
	18 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	1	2	3	4	5
	19 記録を作成し、実施を評価する	1	2	3	4	5
	20 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	1	2	3	4	5

3. 一時保育を実施する上で担当者として意識していることをお書きください。

4. あなたは次のようなとき、自分の資質を向上させたいという気持ちをどの程度感じますか。該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。「経験したことがない」場合は、「－」に○をつけてください。

	資質向上意欲のきっかけ	感じない まったく	感じない	あまり 感じない	まあまあ 感じる	感じる	非常に 感じる	経験した ことがない
1	上司に自分の仕事認められたとき	1	2	3	4	5	6	－
2	自分の仕事で子どもが喜んだとき	1	2	3	4	5	6	－
3	子どもの成長を感じることができたとき	1	2	3	4	5	6	－
4	保護者から感謝されたとき	1	2	3	4	5	6	－
5	自分に任せられた業務を全うできたとき	1	2	3	4	5	6	－
6	責任の重い仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	－
7	新しい仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	－
8	他の職員との共同で目標が達成できたとき	1	2	3	4	5	6	－
9	給料が上がったとき	1	2	3	4	5	6	－
10	役職が上がったとき	1	2	3	4	5	6	－

5. あなたは次のキャリアアップ研修を受けましたか。該当するもの全てに○をつけてください（複数回答可）。

- 1 乳児保育 2 幼児教育 3 障害児保育
4 食育・アレルギー対応 5 保健衛生・安全対策 6 保護者支援・子育て支援
7 マネジメント 8 保育実践 9 受講していない

6. あなたは、設問1の資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。有効であったと思う研修・研鑽に○をつけてください（複数回答可）。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learning とはインターネットを介した研修・研鑽とします。

	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
保護者への子育て支援				
地域における子育て支援				

7. あなたは、次の内容の研修を受けたことがありますか。「ない・ある」のどちらかに○をつけてください。また現在担当している地域子育て支援にかかる事業のためにどれほどさらに研修をしたいと思いますか。1～5の数字のうち1つを選んでください。

	研修内容	研修の受講経験	ない 研修の必要は 要である	少し 研修が必要 である	ある 研修が必要 である	かなり 研修が必要 である	膨大な 研修が必要 である
1	保護者支援・子育て支援の意義	ない・ある	1	2	3	4	5
2	保護者に対する相談援助	ない・ある	1	2	3	4	5
3	地域における子育て支援	ない・ある	1	2	3	4	5
4	虐待予防	ない・ある	1	2	3	4	5
5	関係機関との連携、地域資源の活用	ない・ある	1	2	3	4	5

8. 認可保育所（公営・民営）〔幼保連携型認定こども園を含む〕における保育士・保育教諭としての通算勤務年数は何年ですか。6か月以上は繰り上げてください（この4月からの勤務は、1年とします）。

正規 _____ 年 非常勤 _____ 年

9. あなたは現在、正規職員ですか、それとも非常勤職員ですか。どちらかに○をつけてください。 1 正規 ・ 2 非常勤

10. あなたの年齢について、該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。

- 1 20歳以上30歳未満 2 30歳以上40歳未満 3 40歳以上50歳未満 4 50歳以上

11. あなたはこれまでに地域子育て支援の次の内容を何年間担当してきましたか。通算の担当年数をお書きください。6か月以上は繰り上げてください（この4月からの担当は、1年とします）。

園庭開放・広場など _____ 年 情報提供・相談など _____ 年 一時保育 _____ 年

12. あなたは今回の調査で、この調査票以外にも回答していますか。回答しているすべての調査票に○をつけてください。

- 1 一時保育の担当者用 2 園庭開放の担当者用 3 情報提供・相談の担当者用

ご協力、ありがとうございました。

B 票 園庭開放の担当者用

地域子育て支援担当者の資質に関する研究調査票

1. 地域子育て支援の担当者としての資質についてお尋ねします。下の表は「保護者への子育て支援」「地域における子育て支援」の2つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。今のあなたの資質は、5段階のうちどの段階ですか。それぞれの資質ごとに、1から5の数字のいずれか1つに○をつけてください。

	資質の段階	○印
保護者への子育て支援	1. 子育て支援の重要性を理解している。	1
	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	2
	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	3
	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	4
	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	5
地域における子育て支援	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	1
	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	2
	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	3
	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	4
	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	5

2. 園庭開放を実施する上で担当者として次の内容にどの程度困っていますか。数字に○をつけてください。

内容	全く困っていない	困っていない	困つていない	困つていない	困つていない	困つていない	非常に困っている
子どもとの関係	1 保育者が初対面の子どもと関係をつくる	1	2	3	4	5	6
	2 初対面の子ども同士の関係づくりを促す	1	2	3	4	5	6
	3 子どもが主体的に遊べるような環境をつくる	1	2	3	4	5	6
	4 特別な配慮が必要な子どもに応じた保育をする	1	2	3	4	5	6
	5 受け入れる子どもの実態把握（心身の状況把握、お子さんの特徴、個性等）を行う	1	2	3	4	5	6
保護者との関係	6 保育者が初対面の保護者と関係をつくる	1	2	3	4	5	6
	7 初対面の保護者同士の関係づくりを促す	1	2	3	4	5	6
	8 特別な配慮が必要な子どもの保護者に対応する	1	2	3	4	5	6
	9 特別な配慮が必要な保護者に対応する	1	2	3	4	5	6
	10 保護者の相談に対応する時間と場を確保する	1	2	3	4	5	6
保育の提供サービス	11 保育内容の計画作成の時間を確保する	1	2	3	4	5	6
	12 年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う	1	2	3	4	5	6
	13 教材づくりの時間を確保する	1	2	3	4	5	6
	14 担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある	1	2	3	4	5	6
	15 通常の保育活動との連携や調整を行う	1	2	3	4	5	6
	16 保護者がほっと一息つけるようにする	1	2	3	4	5	6
その他	17 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	1	2	3	4	5	6
	18 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	1	2	3	4	5	6
	19 記録を作成し、実施を評価する	1	2	3	4	5	6
	20 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	1	2	3	4	5	6

3. 園庭開放を実施する上で担当者として意識していることをお書きください。

4. あなたは次のようなとき、自分の資質を向上させたいという気持ちをどの程度感じますか。該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。「経験したことがない」場合は、「－」に○をつけてください。

	資質向上意欲のきっかけ	感じない まったく	感じない	あまり 感じない	まあまあ 感じる	感じる	非常に 感じる	経験した ことがない
1	上司に自分の仕事認められたとき	1	2	3	4	5	6	－
2	自分の仕事で子どもが喜んだとき	1	2	3	4	5	6	－
3	子どもの成長を感じることができたとき	1	2	3	4	5	6	－
4	保護者から感謝されたとき	1	2	3	4	5	6	－
5	自分に任せられた業務を全うできたとき	1	2	3	4	5	6	－
6	責任の重い仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	－
7	新しい仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	－
8	他の職員との共同で目標が達成できたとき	1	2	3	4	5	6	－
9	給料が上がったとき	1	2	3	4	5	6	－
10	役職が上がったとき	1	2	3	4	5	6	－

5. あなたは次のキャリアアップ研修を受けましたか。該当するもの全てに○をつけてください（複数回答可）。

- 1 乳児保育 2 幼児教育 3 障害児保育
4 食育・アレルギー対応 5 保健衛生・安全対策 6 保護者支援・子育て支援
7 マネジメント 8 保育実践 9 受講していない

6. あなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。有効であったと思う研修・研鑽に○をつけてください（複数回答可）。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
保護者への子育て支援				
地域における子育て支援				

7. あなたは、次の内容の研修を受けたことがありますか。「ない・ある」のどちらかに○をつけてください。また現在担当している地域子育て支援にかかる事業のためにどれほどさらに研修をしたいと思いますか。1～5の数字のうち1つを選んでください。

	研修内容	研修の受講経験	ない 研修の必要は 要である	少し 研修が必要 である	ある 研修が必要 である	かなり 研修が必要 である	膨大な 研修が必要 である
1	保護者支援・子育て支援の意義	ない・ある	1	2	3	4	5
2	保護者に対する相談援助	ない・ある	1	2	3	4	5
3	地域における子育て支援	ない・ある	1	2	3	4	5
4	虐待予防	ない・ある	1	2	3	4	5
5	関係機関との連携、地域資源の活用	ない・ある	1	2	3	4	5

8. 認可保育所（公営・民営）【幼保連携型認定こども園を含む】における保育士・保育教諭としての通算勤務年数は何年ですか。6か月以上は繰り上げてください（この4月からの勤務は、1年とします）。

正規 _____ 年 非常勤 _____ 年

9. あなたは現在、正規職員ですか、それとも非常勤職員ですか。どちらかに○をつけてください。 1 正規 ・ 2 非常勤

10. あなたの年齢について、該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。

- 1 20歳以上30歳未満 2 30歳以上40歳未満 3 40歳以上50歳未満 4 50歳以上

11. あなたはこれまでに地域子育て支援の次の内容を何年間担当してきましたか。通算の担当年数をお書きください。6か月以上は繰り上げてください（この4月からの担当は、1年とします）。

園庭開放・広場など _____ 年 情報提供・相談など _____ 年 一時保育 _____ 年

12. あなたは今回の調査で、この調査票以外にも回答していますか。回答しているすべての調査票に○をつけてください。

- 1 一時保育の担当者用 2 園庭開放の担当者用 3 情報提供・相談の担当者用

ご協力、ありがとうございました。

C票 情報提供・相談の担当者用

地域子育て支援担当者の資質に関する研究調査票

1. 地域子育て支援の担当者としての資質についてお尋ねします。下の表は「保護者への子育て支援」「地域における子育て支援」の2つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。今のあなたの資質は、5段階のうちどの段階ですか。それぞれの資質ごとに、1から5の数字のいずれか1つに○をつけてください。

	資質の段階	○印
保護者への子育て支援	1. 子育て支援の重要性を理解している。	1
	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	2
	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	3
	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	4
	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	5
地域における子育て支援	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	1
	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	2
	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	3
	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	4
	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	5

2. 情報提供・相談を実施する上で、担当者として次の内容にどの程度困っていますか。数字に○をつけてください。

内容		全く困っていない	やや困っている	困っている	かなり困っている	非常に困っている
情報の収集・提供	1 子育てに関する法制度やサービス等の情報を収集する	1	2	3	4	5
	2 地域に関する情報を収集する	1	2	3	4	5
	3 子どもや子育て方法に関する情報を収集する	1	2	3	4	5
	4 個々の保護者のニーズに沿った情報を提供する	1	2	3	4	5
	5 地域全般の保護者のニーズに沿った情報を提供する	1	2	3	4	5
	6 保育所等の特性を生かした情報を提供する	1	2	3	4	5
情報提供の方法等	7 多様な広報媒体（チラシ、便り、ホームページ等）を活用し、情報を提供する	1	2	3	4	5
	8 保護者の特性に応じた方法によって、情報を提供する	1	2	3	4	5
	9 定期的に情報を見直し、必要に応じて新しい情報を更新する	1	2	3	4	5
子育て相談	10 保護者の話を傾聴し、保護者の気持ちや理解してほしいことを受容・共感する	1	2	3	4	5
	11 個々の家庭のアセスメントを行い、ニーズを把握する	1	2	3	4	5
	12 保護者自身が自己決定する過程を支える	1	2	3	4	5
	13 療育の必要性（専門機関との連携等）の判断を行う	1	2	3	4	5
	14 虐待等が疑われる場合の通告の判断を行う	1	2	3	4	5
	15 保護者との相互理解を図る	1	2	3	4	5
	16 保護者が意欲的に子育てする気持ちを育てる	1	2	3	4	5
	17 保護者に保育に関わる活動への参加を促す	1	2	3	4	5
	18 保育と子育て支援の関連を理解して、取り組む	1	2	3	4	5
	19 保護者の個別の状況に配慮して、子育てを支援する	1	2	3	4	5
その他	20 保育所全体で保護者の子育てを支援する体制をつくる	1	2	3	4	5
	21 企画書や計画書（マニュアルを含む）に基づいて実施する	1	2	3	4	5
	22 記録を作成し、実施を評価する	1	2	3	4	5
	23 日常的に関係機関や団体等と連携し、ネットワークを構築する	1	2	3	4	5

3. 情報提供・相談を実施する上で担当者として意識していることをお書きください。

4. あなたは次のようなとき、自分の資質を向上させたいという気持ちをどの程度感じますか。該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。「経験したことがない」場合は、「－」に○をつけてください。

	資質向上意欲のきっかけ	まったく感じない	感じない	あまり感じない	まあまあ感じる	感じる	非常に感じる	経験したことがない
1	上司に自分の仕事が認められたとき	1	2	3	4	5	6	－
2	自分の仕事で子どもが喜んだとき	1	2	3	4	5	6	－
3	子どもの成長を感じることができたとき	1	2	3	4	5	6	－
4	保護者から感謝されたとき	1	2	3	4	5	6	－
5	自分に任せられた業務を全うできたとき	1	2	3	4	5	6	－
6	責任の重い仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	－
7	新しい仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	－
8	他の職員との共同で目標が達成できたとき	1	2	3	4	5	6	－
9	給料が上がったとき	1	2	3	4	5	6	－
10	役職が上がったとき	1	2	3	4	5	6	－

5. あなたは次のキャリアアップ研修を受けましたか。該当するもの全てに○をつけてください（複数回答可）。

- | | | |
|--------------|-------------|---------------|
| 1 乳児保育 | 2 幼児教育 | 3 障害児保育 |
| 4 食育・アレルギー対応 | 5 保健衛生・安全対策 | 6 保護者支援・子育て支援 |
| 7 マネジメント | 8 保育実践 | 9 受講していない |

6. あなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。有効であったと思う研修・研鑽に○をつけてください（複数回答可）。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
保護者への子育て支援				
地域における子育て支援				

7. あなたは、次の内容の研修を受けたことがありますか。「ない・ある」のどちらかに○をつけてください。また現在担当している地域子育て支援にかかる事業のためにどれほどさらに研修をしたいと思いますか。1～5の数字のうち1つを選んでください。

	研修内容	研修の受講経験	必要はない	研修の必要があるが少し必要で修	研修が必要である	研修がかなり必要である	膨大な研修が必要である
1	保護者支援・子育て支援の意義	ない・ある	1	2	3	4	5
2	保護者に対する相談援助	ない・ある	1	2	3	4	5
3	地域における子育て支援	ない・ある	1	2	3	4	5
4	虐待予防	ない・ある	1	2	3	4	5
5	関係機関との連携、地域資源の活用	ない・ある	1	2	3	4	5

8. 認可保育所（公営・民営）【幼保連携型認定こども園を含む】における保育士・保育教諭としての通算勤務年数は何年ですか。6か月以上は繰り上げてください（この4月からの勤務は、1年とします）。

正規 _____ 年 非常勤 _____ 年

9. あなたは現在、正規職員ですか、それとも非常勤職員ですか。どちらかに○をつけてください。 1 正規 ・ 2 非常勤

10. あなたの年齢について、該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。

- 1 20歳以上30歳未満 2 30歳以上40歳未満 3 40歳以上50歳未満 4 50歳以上

11. あなたはこれまでに地域子育て支援の次の内容を何年間担当してきましたか。通算の担当年数をお書きください。6か月以上は繰り上げてください（この4月からの担当は、1年とします）。

園庭開放・広場など _____ 年 情報提供・相談など _____ 年 一時保育 _____ 年

12. あなたは今回の調査で、この調査票以外にも回答していますか。回答しているすべての調査票に○をつけてください。

- 1 一時保育の担当者用 2 園庭開放の担当者用 3 情報提供・相談の担当者用

ご協力、ありがとうございました。